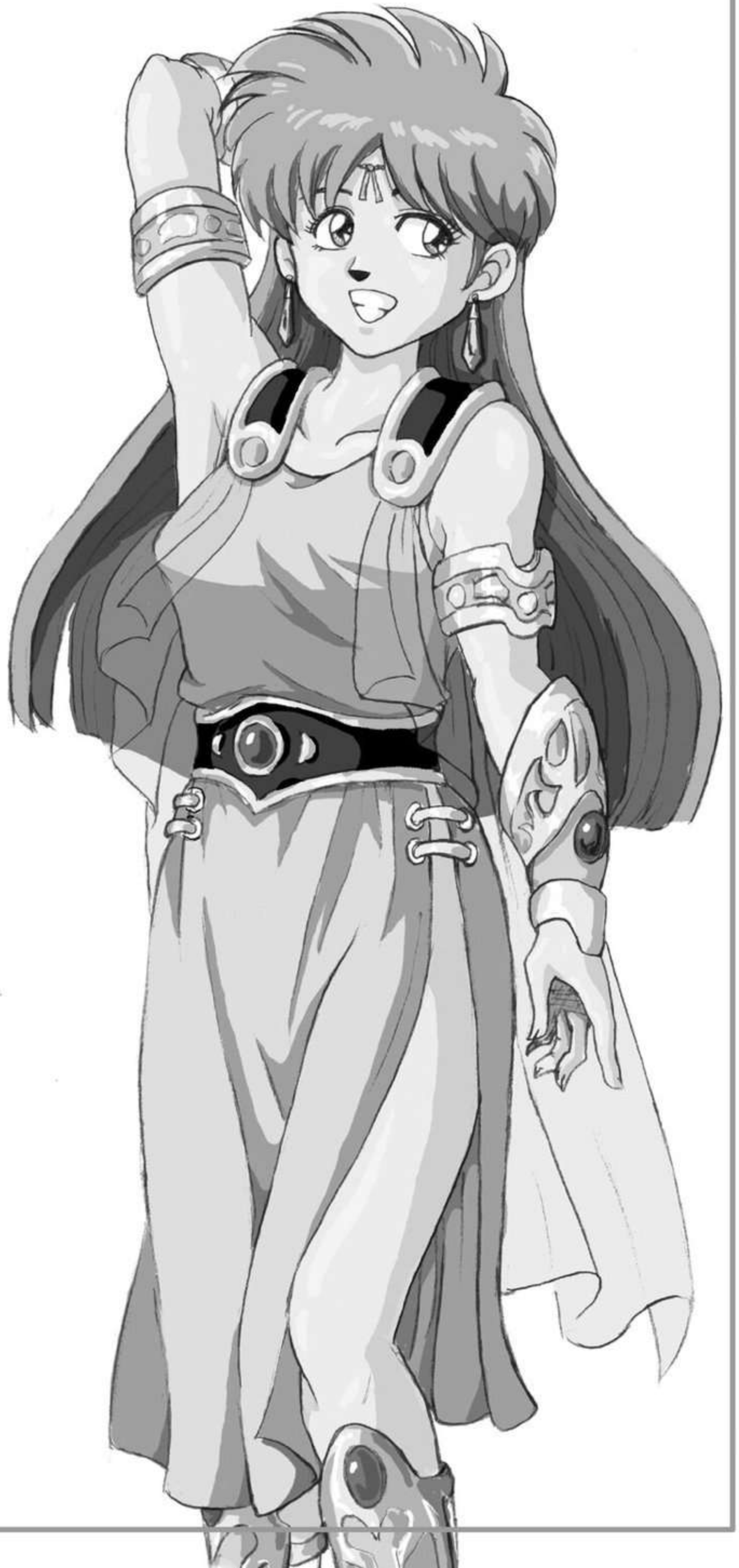


双星白刃





ふたなり☆プリンセス

ヘタール王国

我が王国を代表して
礼を言わせて欲しい

勇者ダイよ
よくやってくれた

おれは別に：
救難信号を発見した
のは見張りの人だし

行こうって決断した
のはレオナだから：

そちが勇者どのを
導いてくれたのだな？

重ね重ね
礼を言おう

とんでもございません
ご無事で何よりでした

そうかしこまるな
パプニカの姫よ

わしも先ほどまで
王子という身分
だったのだから：

どういふこと
ですか？

王であった父が
先ほどの襲撃で
命を落としてな：

つまりわしは王に
なったばかりなのだ

そ…そんな…

おれたちがもう少し
早く来ていれば：

そんな顔をするな
…勇者どの

どちらにしても
もう父はそう
長くはなかった
…歳も歳
だったしな

でも…

それよりも勇者どのには
何か礼がしたいのだが：

受け取ってくれるかな？

も…もちろん！

我が王国に伝わる
伝説の武器がある

それを勇者どの
に差し上げたい



我が国の家宝
大切にしてく
だされ



もちろん
大切にしますよ！

えっ!?
伝説の武器!?

そんな凄いもの
をおれに?!



ただ…その武器は
少し嚴重な場所に
保管されておる

嚴重な場所?

うむ

東の森を抜けた先にある
ダンジョンの最深部に
隠されておるのだ

だったらおれと
レオナで…

それは
ダメだ!

そのダンジョンは
一人までしか入る事が
許されていないのだ

え…?
じゃあレオナは…

安心しなさい
姫には客間を
用意しよう

勇者どのが戻るまで
そこでゆっくりと
待っておればよい

それから—

ダンジョンは地下深く
複雑な形状をしておる

念のため多めに
食糧を持たせよう

何から何まで
ありがとうございます!
王様!

我が国を救ってくれた恩人に
対してのせめてもの礼だ
遠慮せずを受け取ってくれ

うん!

ありがとうございます!

王様!

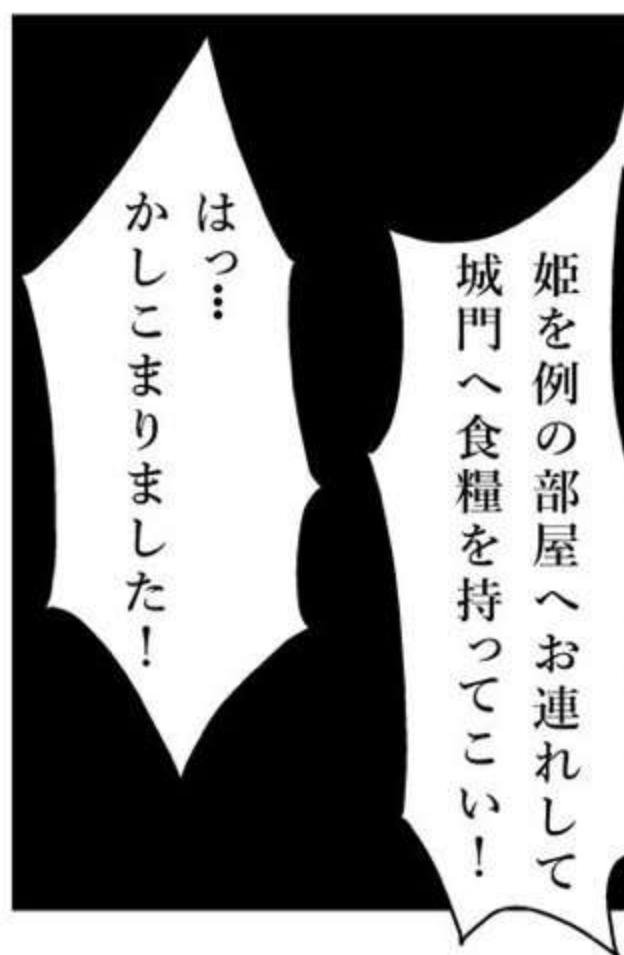
がんばってね
ダイくん!

おい!

姫を例の部屋へお連れして
城門へ食糧を持ってこい!

はっ…

かしこまりました!

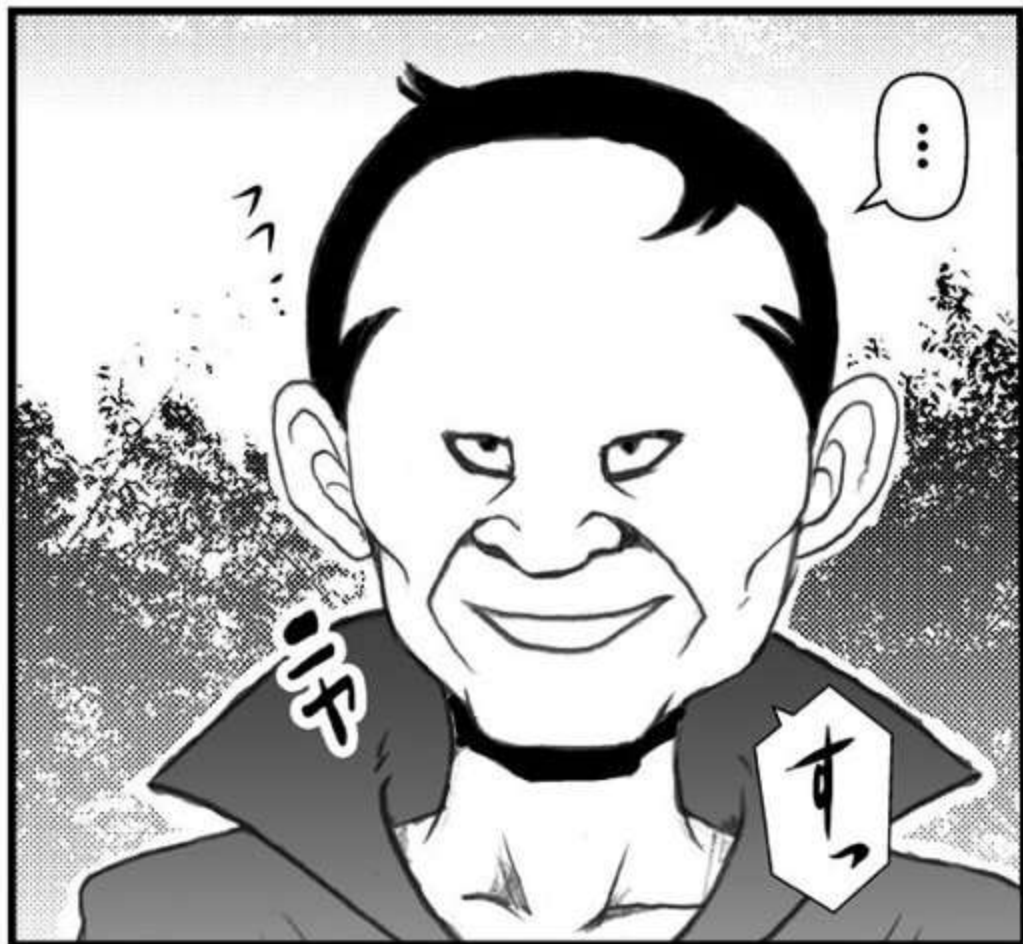




それじゃ
行ってくるね!



これだけあれば
安心だね!
ありがとう
王様!



...



がんばって
伝説の武器を
持ち帰って
くだされ〜♪



飢え死にするまで
永遠に彷徨ってる!

フフ...あそこは
死の迷宮と呼ばれる
ダンジョン...



は。

フン...
バカめ!
あのダンジョンに
伝説の武器など
存在せぬわ!

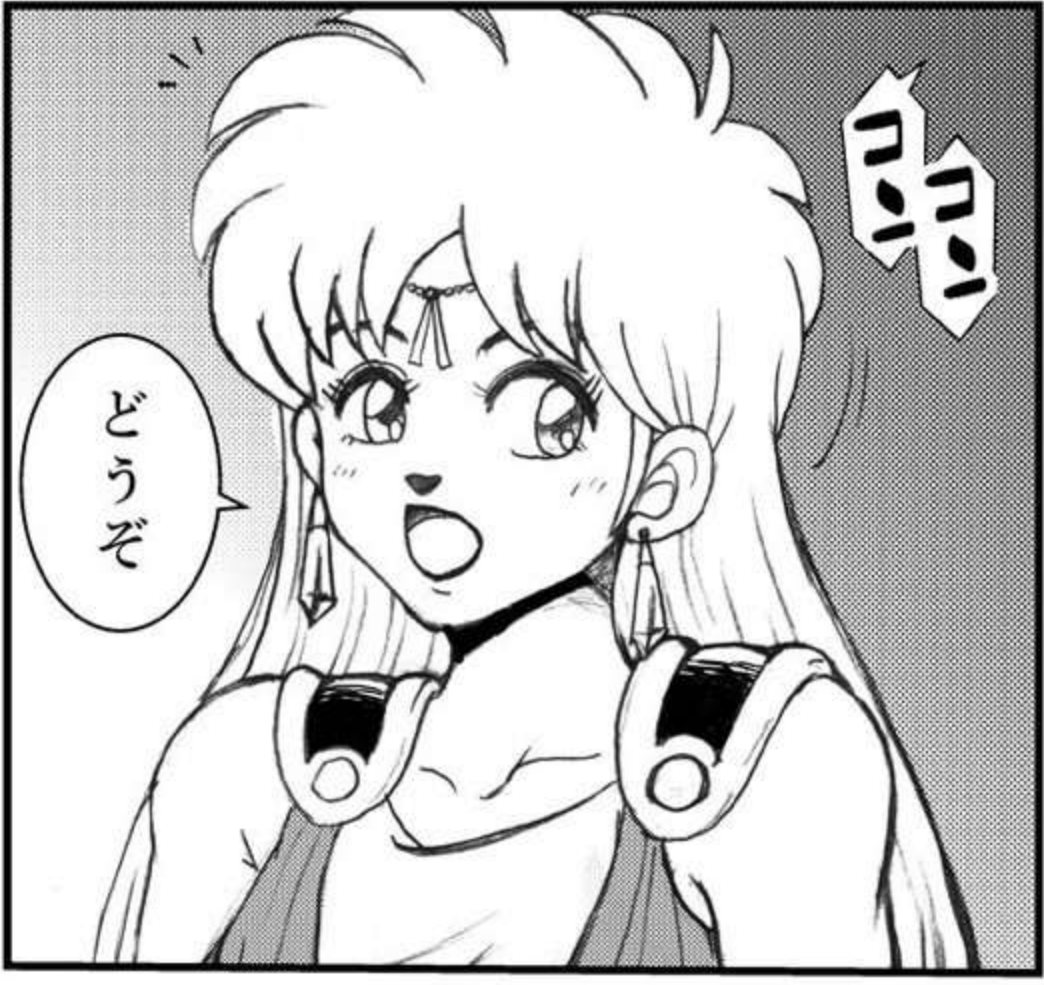
客間



やあ…姫！
喉が渴いた
でしょ？

我が王国自慢の
特性ドリンクを
お持ちしました

ヘイシン王！



どうぞ

お

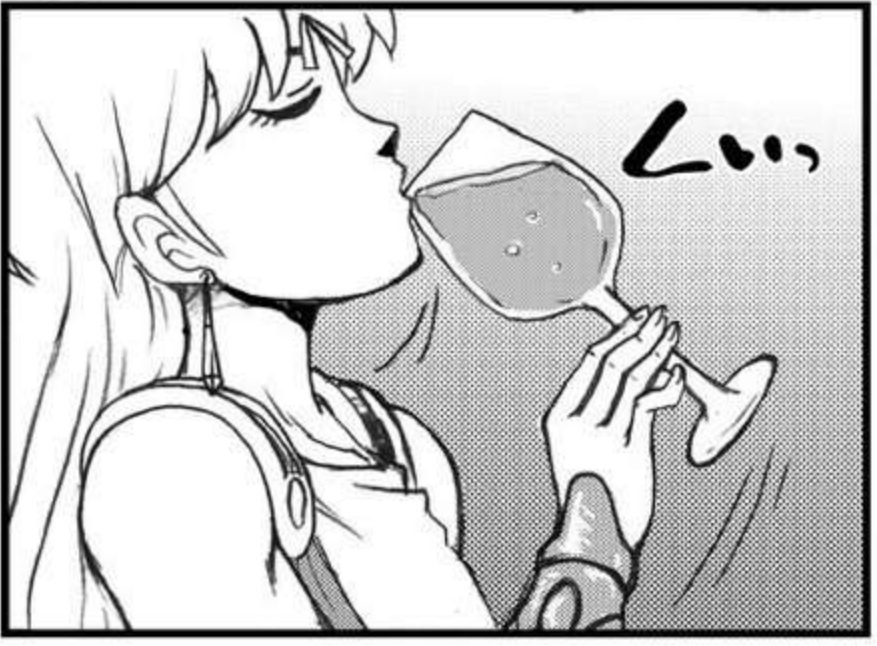


さ…姫！

ぐいっと
ぐいっと
ぐいっと〜



わざわざ王様が
持ってきて下さる
なんて光栄です



グイッ



姫も我が国の
恩人ですから

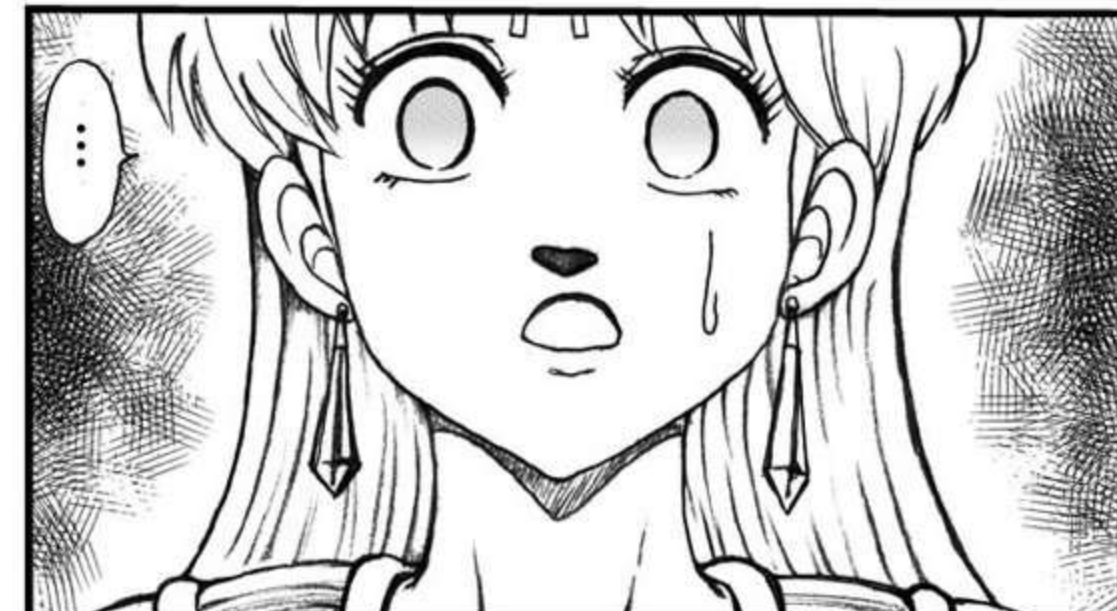
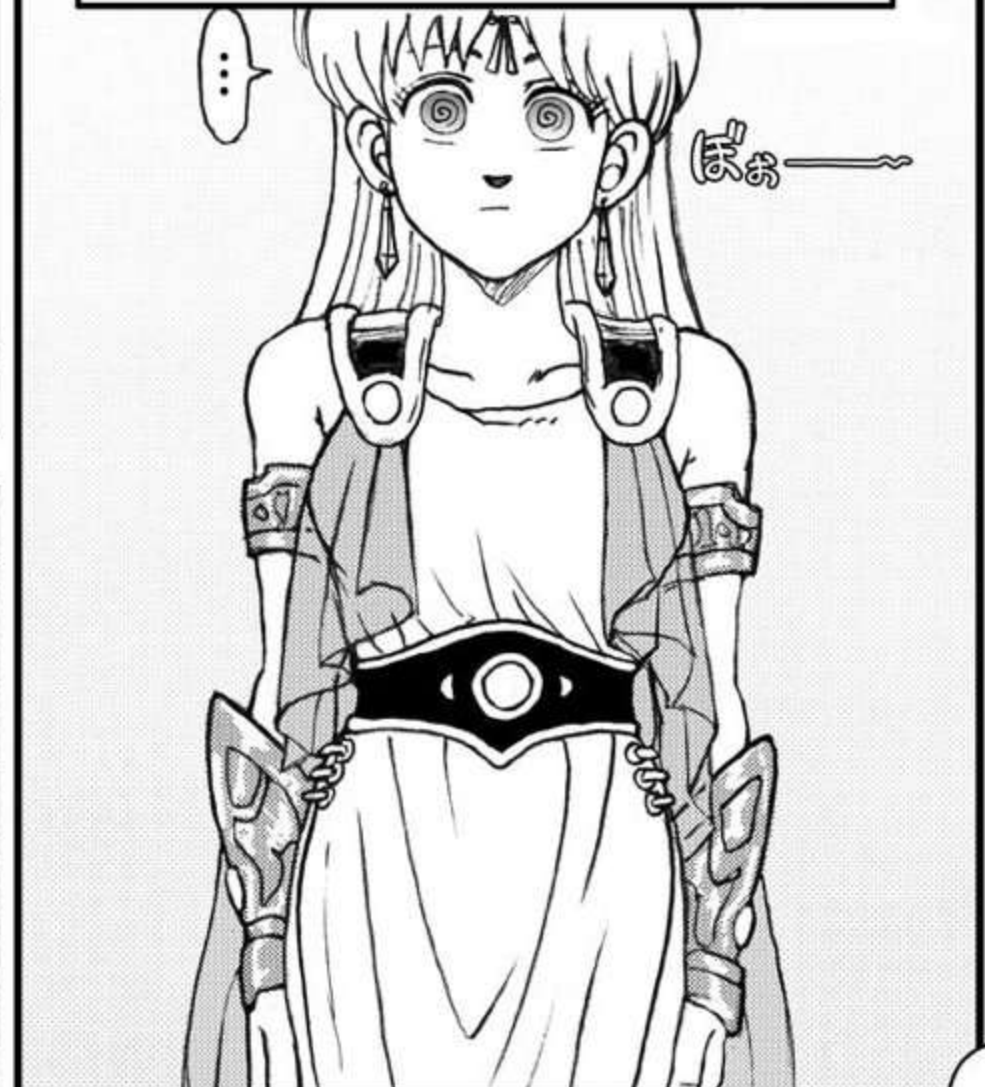
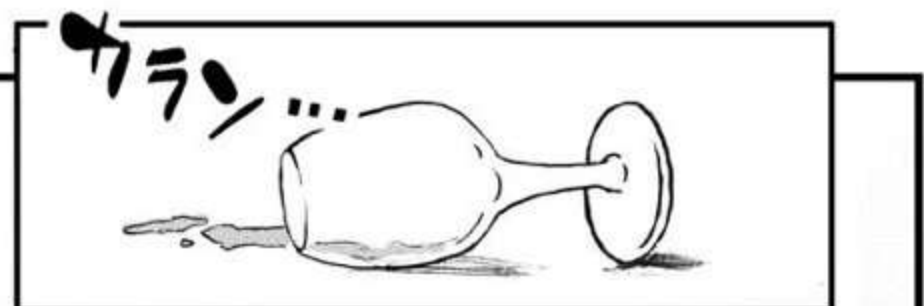
さあ…どうぞ
お飲みなさい

ありがとう
ございます
ヘイシン王

す



ぐいっ／＼



おい...
姫...?

聞こえて
ますかあ?

...
姫?

どうかしました?

ずっとこう
したかった
愛しておるぞ

レオナ

どれ...
早速わしの性癖を
植え付けてやるか

よおし...
完璧な催眠状態
に入ったな...

...我が妃の
誕生だな...

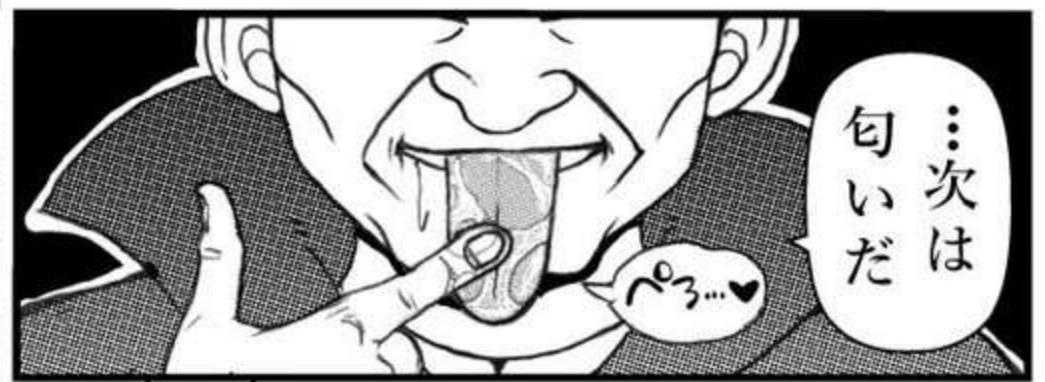
せつかくだ...
ロマンチックに
行くとするか...

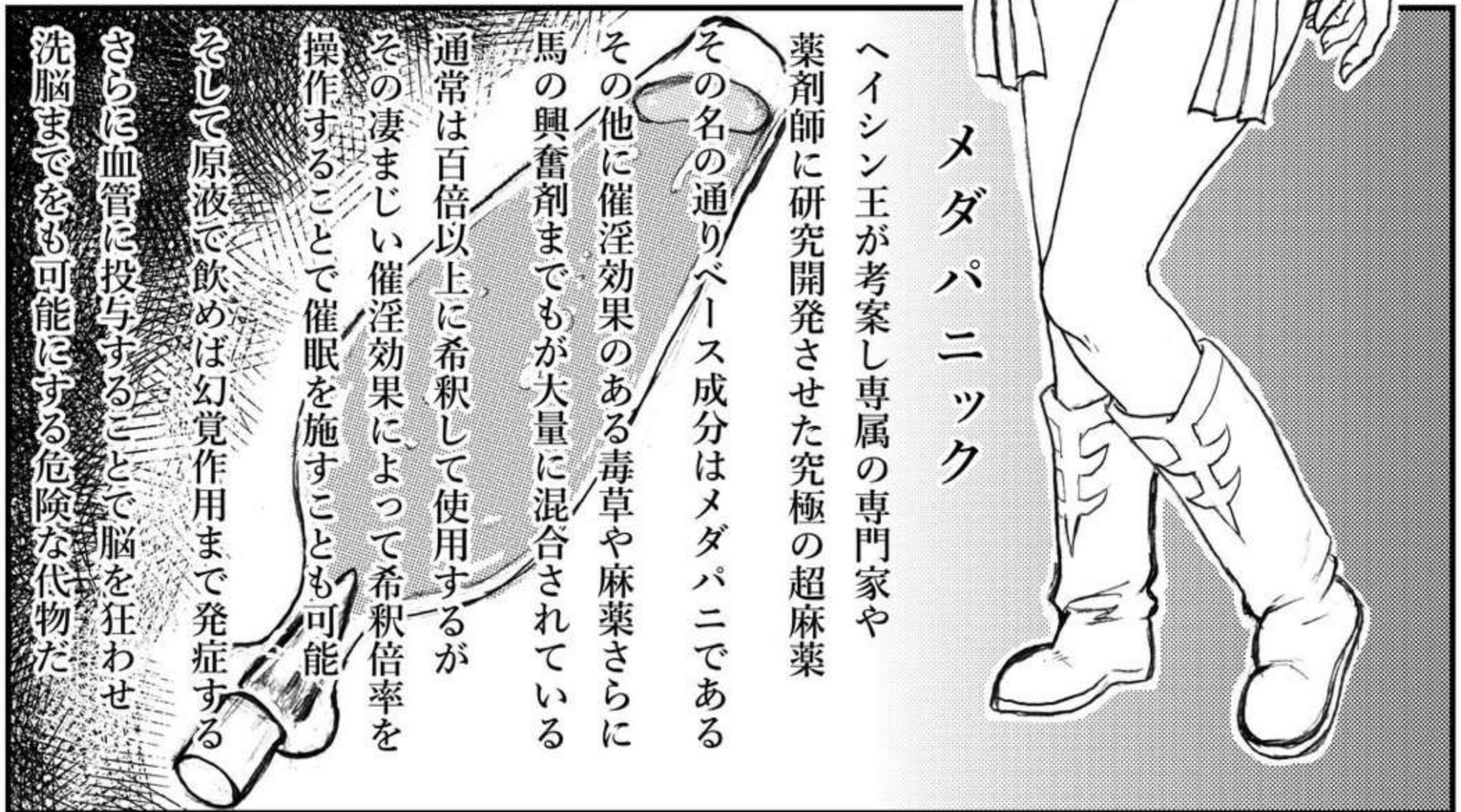
...レオナ

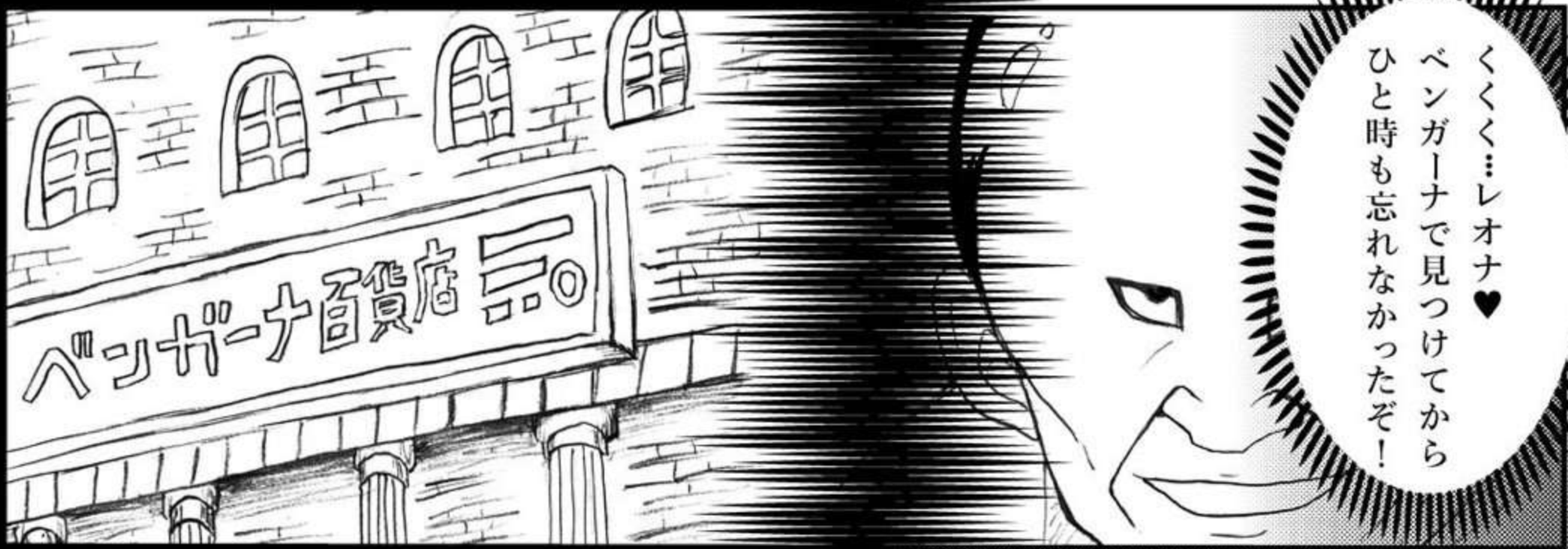
今宵は初夜...

その身体の隅々まで
舐めて味わってやる

ああ...レオナ
なんという美味な
ヨダレなのだ







くくく…レオナ♥
ベッガーナで見つけてから
ひと時も忘れなかったぞ!



ひどいよ…

レオナ



あははっ
ダイくん最高!

なんでそんなに
笑うの…!?

あの女…イイ♥
運命を感じるぞ!



舐めたい…

あーあ

あのカラダ…
舐めたい!



レオナというのか…
たしかパプニカの姫が
そんな名だったな

それにしてもー

なんというけしからん
カラダをしておるのだ!?



クズの汚い手垢がつく前に
なんとしてもあのカラダを
わしだけのモンに…

わしは二人が店を出た後
レオナの試着した水着を
こっそり購入



あーありがとうございます
ございました！

さつそく
持ち帰って

THANK YOU!

匂いを嗅ぎ...

ああっ...
この匂い...



味見をして...



装着した

フフ...

イイ感じだ♪

あはー

まるでレオナのすべてを
手に入れたような気分♪

レオナがベンガーナで
試着したやつ

なかなか似合っとる
んじゃないか？

わし♡



ああああっ...!!

レ...
レオナ...

※レオナの水着に擦りつけてそのまま身精



あっ...

あっ...

レオナっ...

レオナああっ!?

で...出る!

わしっ...

出ちゃうってえ

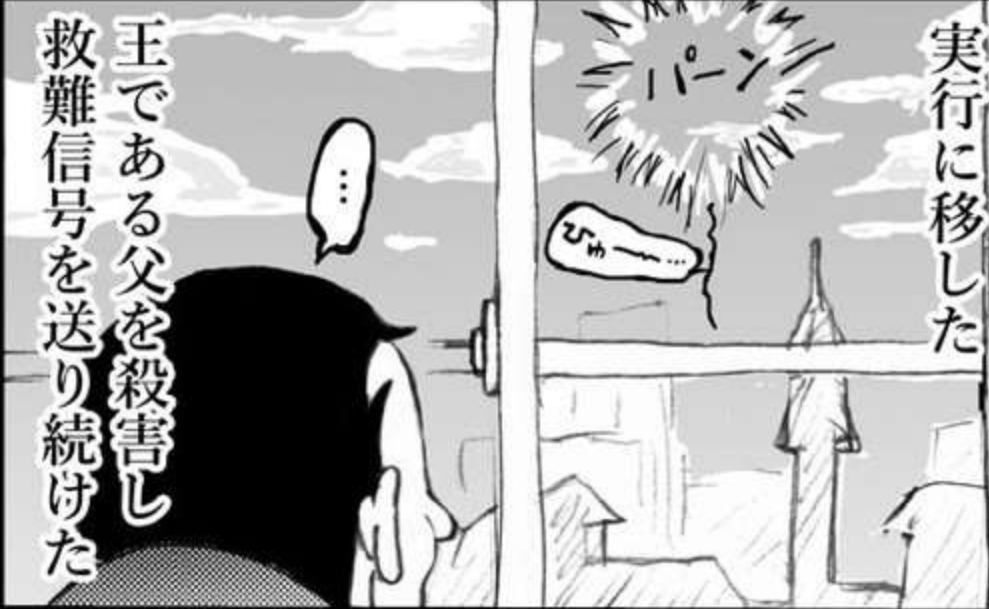
えええええっ!?

まずは手始めに
専属の研究者に



メダパニツクを
造らせた

そしてわしは計画を
実行に移した



王である父を殺害し
救難信号を送り続けた

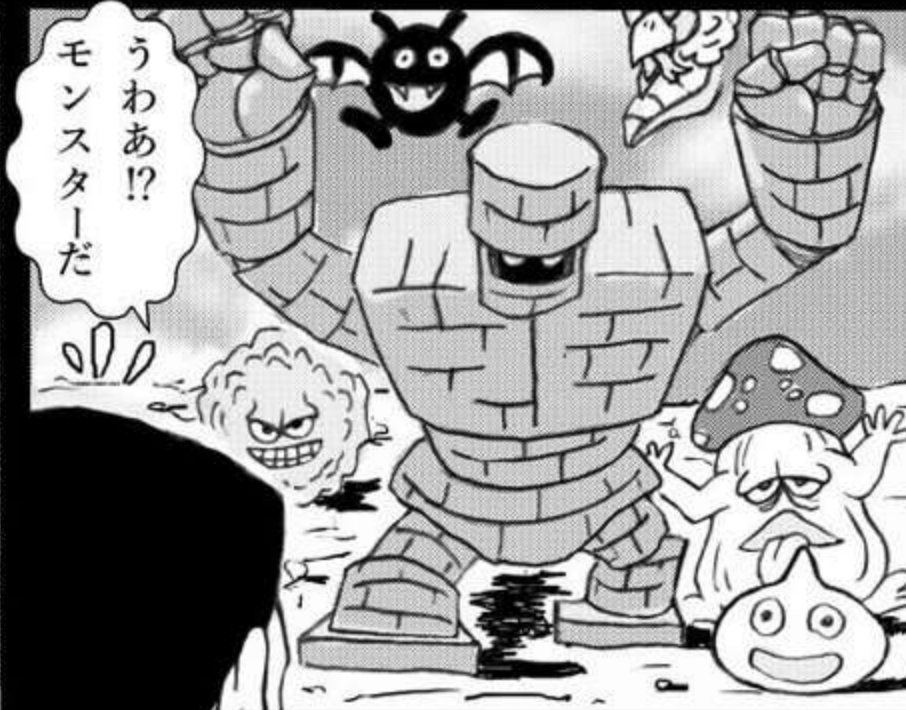
幸いメダパニツクは
すぐに完成した



案の上レオナは
ガキを連れて
やってきた



レオナの来訪を確認後
わしは城下町に大量の
モンスターを放った



うわあ!?
モンスターだ

わしは王国を救った恩人として
まんまとレオナを城へと招き入れた



ようこそ…
へタール王国へ

予想通りモンスター共は
あのガキが始末してくれた



これ以上は
許さないぞ!

ああ…
やつとわしのもとへ
来たか…レオナ♥

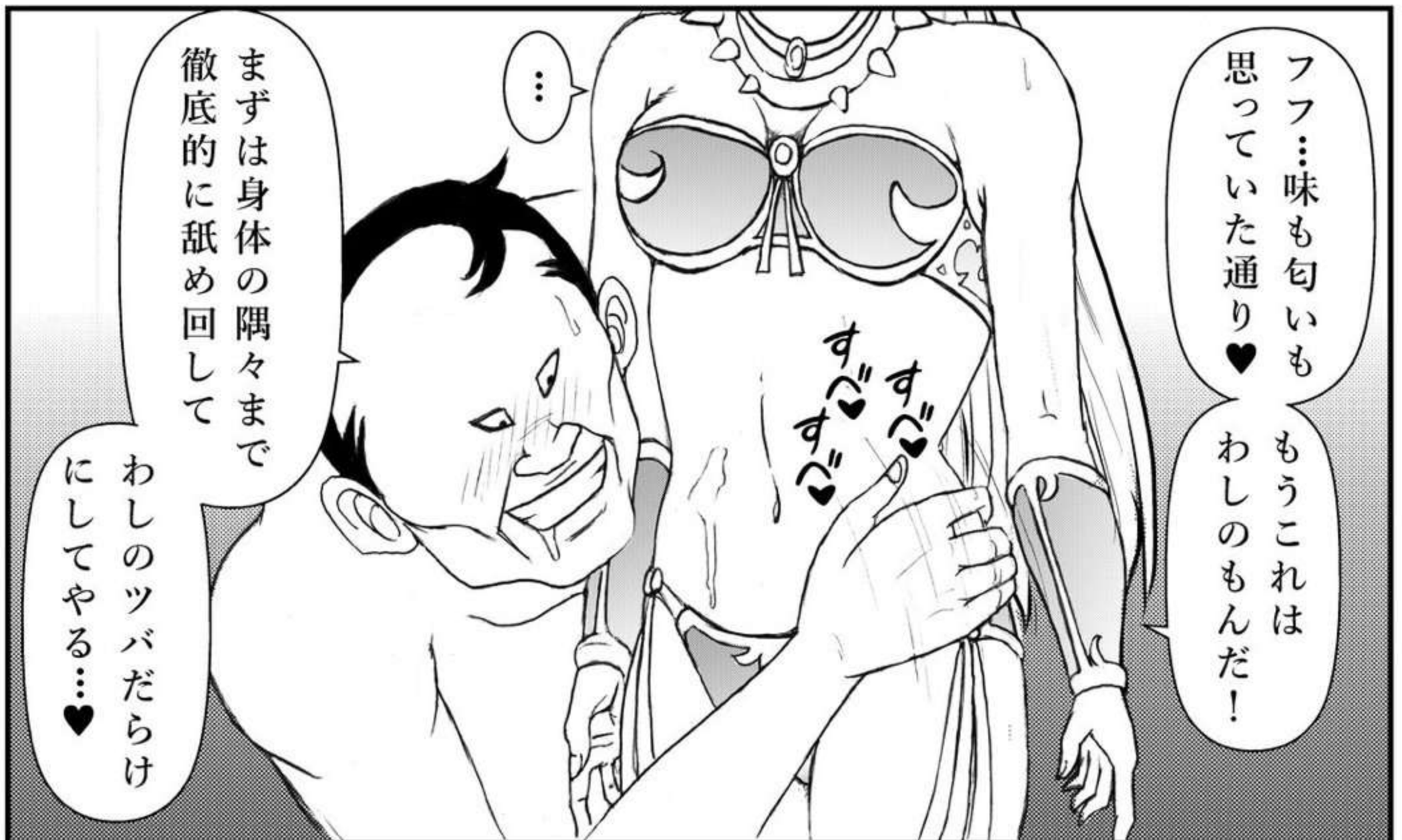
わしはへイシン
へタールの王だ

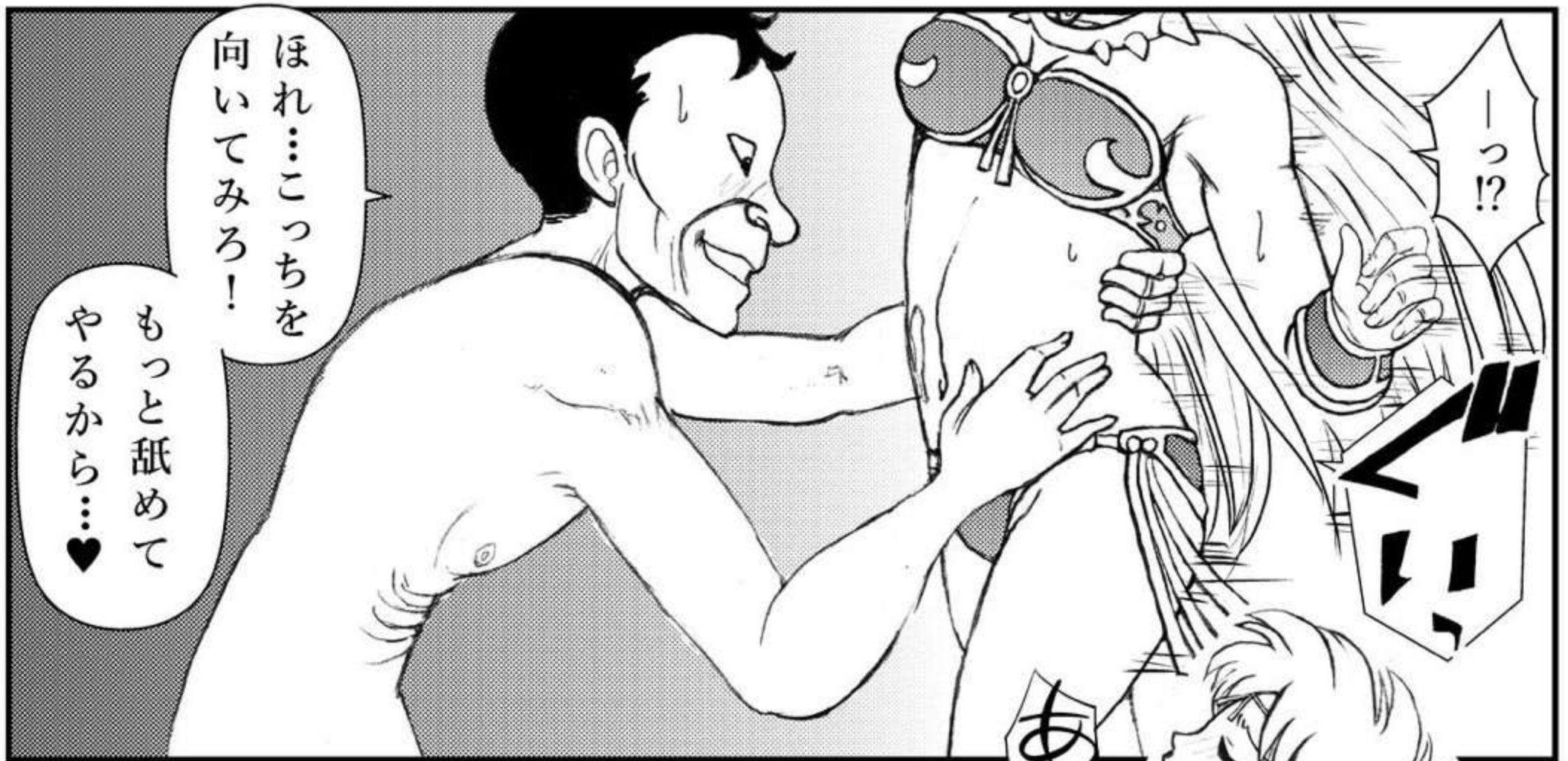
これからはこのわしが
毎日いやらしいことを
教えてやるからな

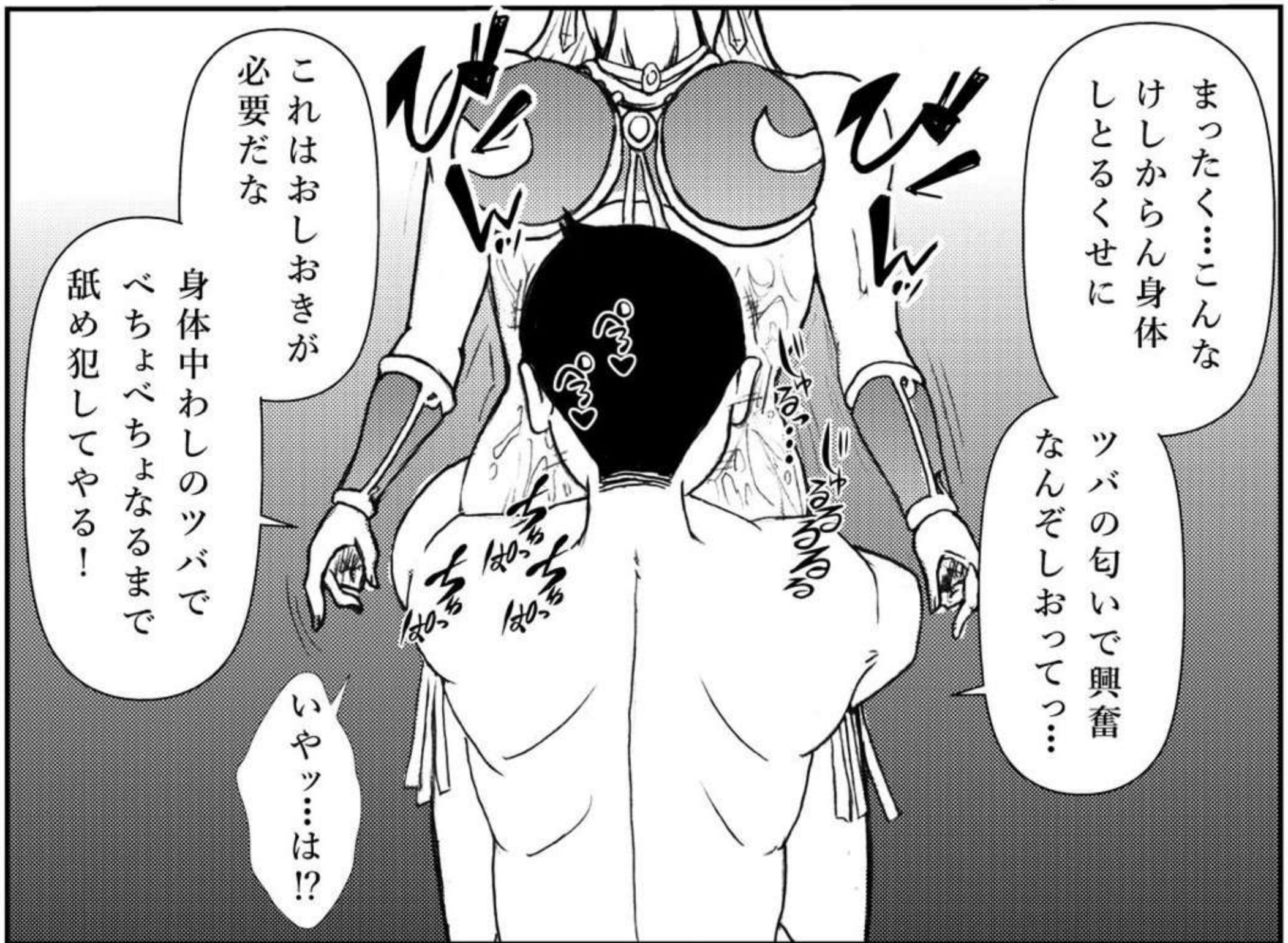


知つとつたよ……わしのレオナ♡





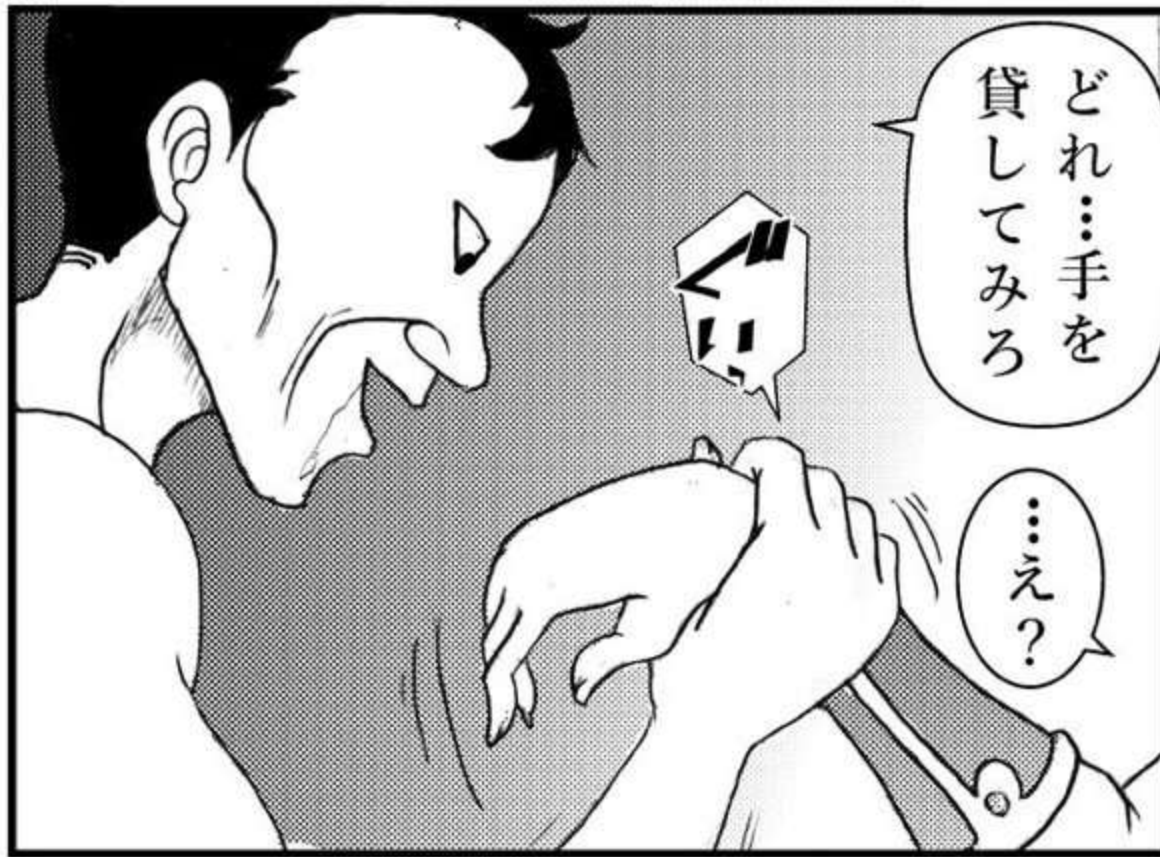






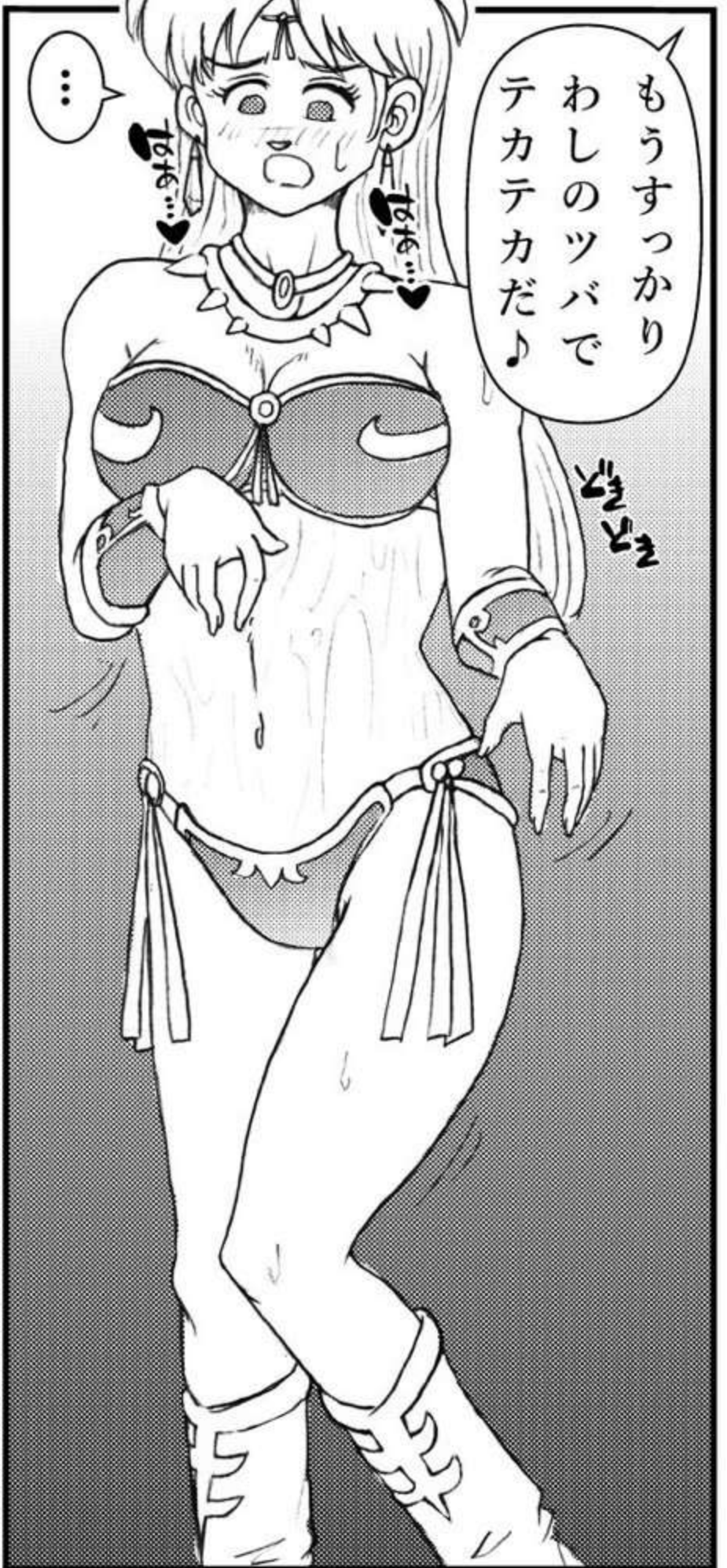
実にわし好み♥

ふふ…
おなかの味…



どれ…手を
貸してみる

…え?

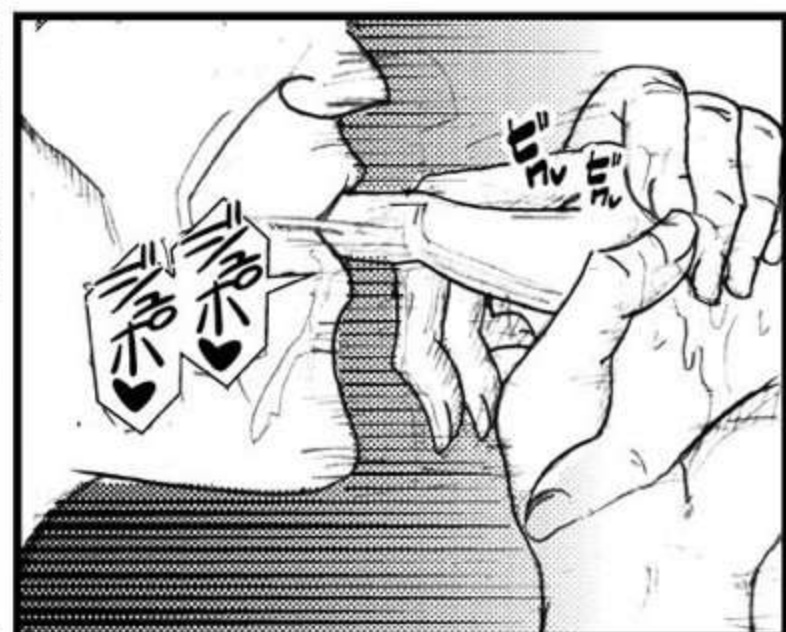
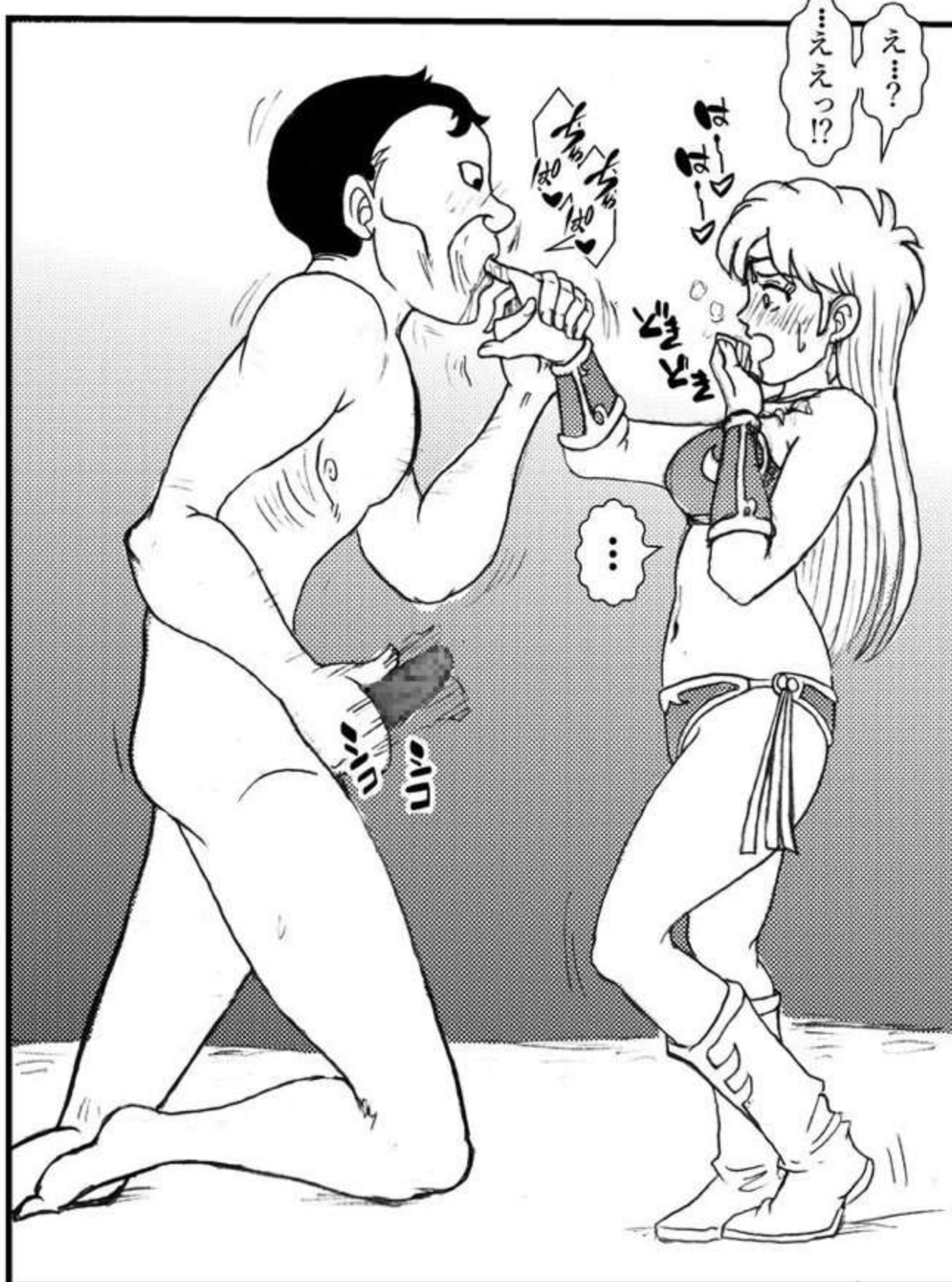
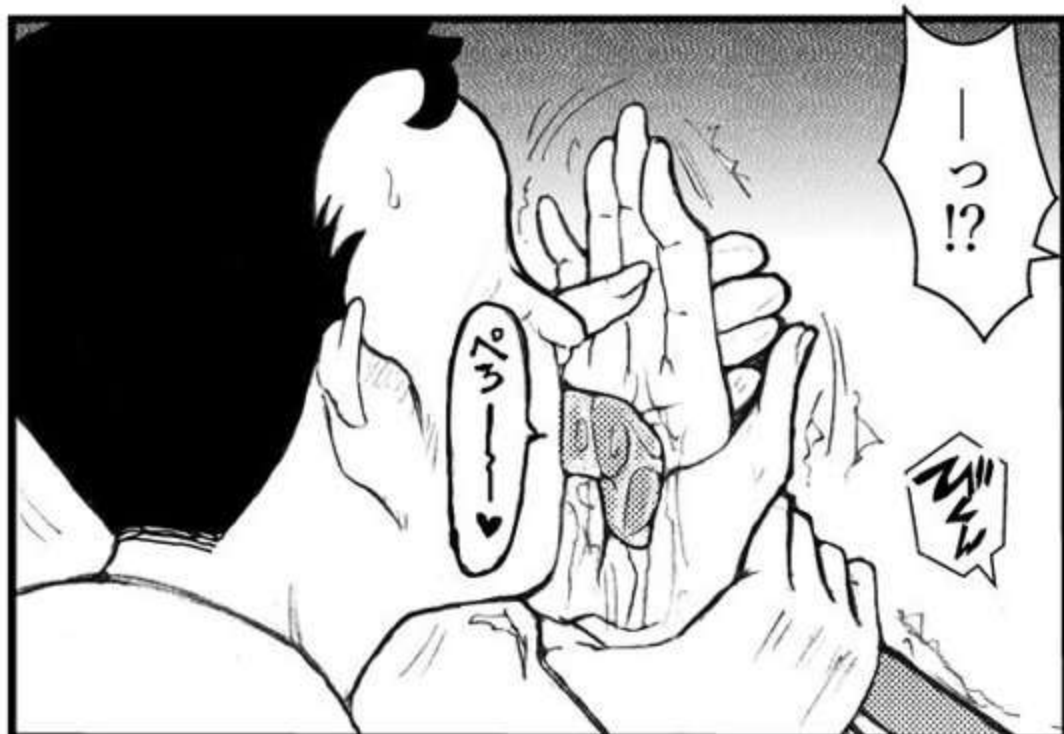


もうすっかり
わしのツバで
テカテカだ♪



待っつれ!
今から全部
舐めてやる
からな…

…ッ!?





どれ
次は肩
だな♡

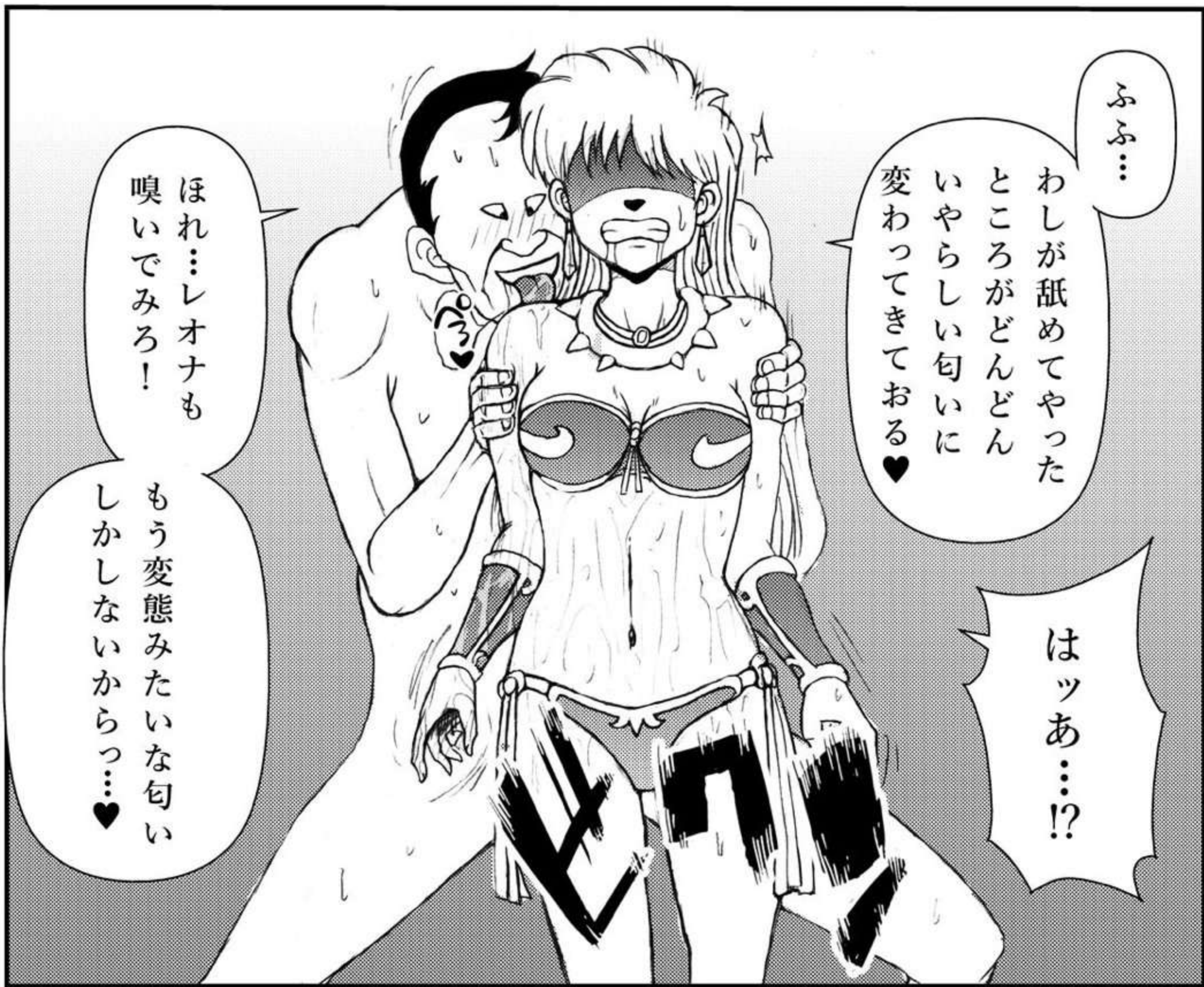
え...?



…腕の味も
実にイイ…



…いやらしい
味だ♡

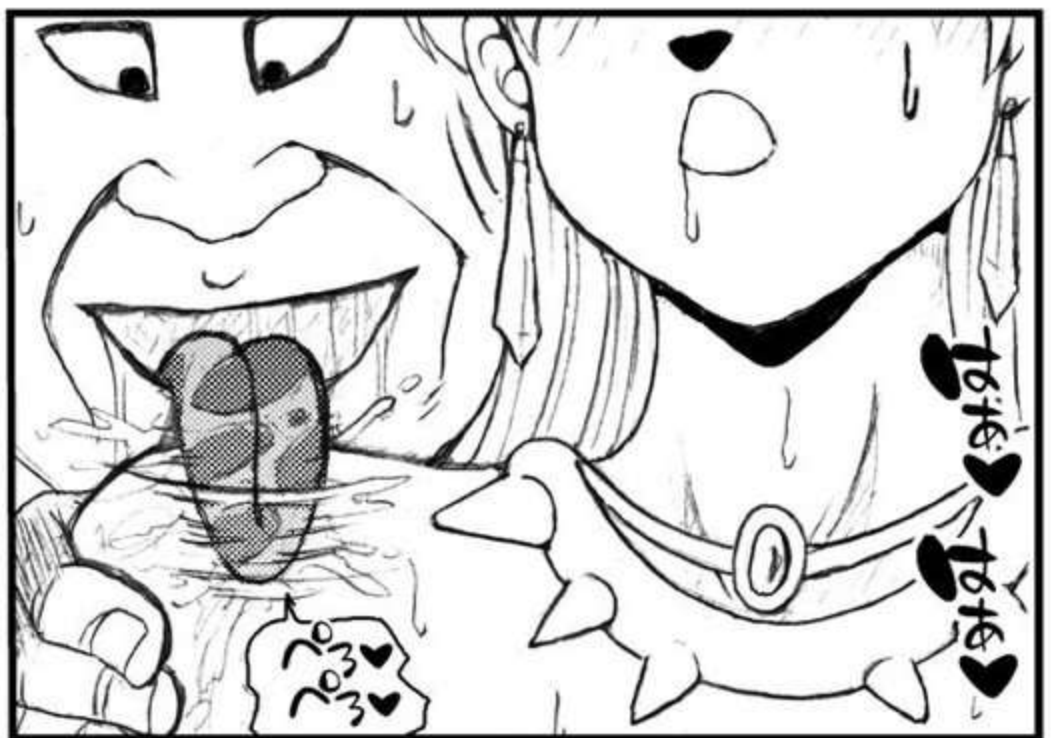


ほれ…レオナも
嗅いでみる!

もう変態みたいなの匂い
しかしないからっ…♡

ふふ…
わしが舐めてやった
ところがどんどん
いやらしい匂いに
変わってきておる♡

はッあ…!?



舐められてる自分の
身体を見て興奮でも
しとるのか？

くく…心配せんでも
隅々まで舐めてやる

ほれ…お次は
反対の肩だ♡

これでもかど
言うほどツバ
まみれにして

じきわしのことしか
考えられないように
してやるからな…♡

ん？

なんだ…
その顔は？

ん？

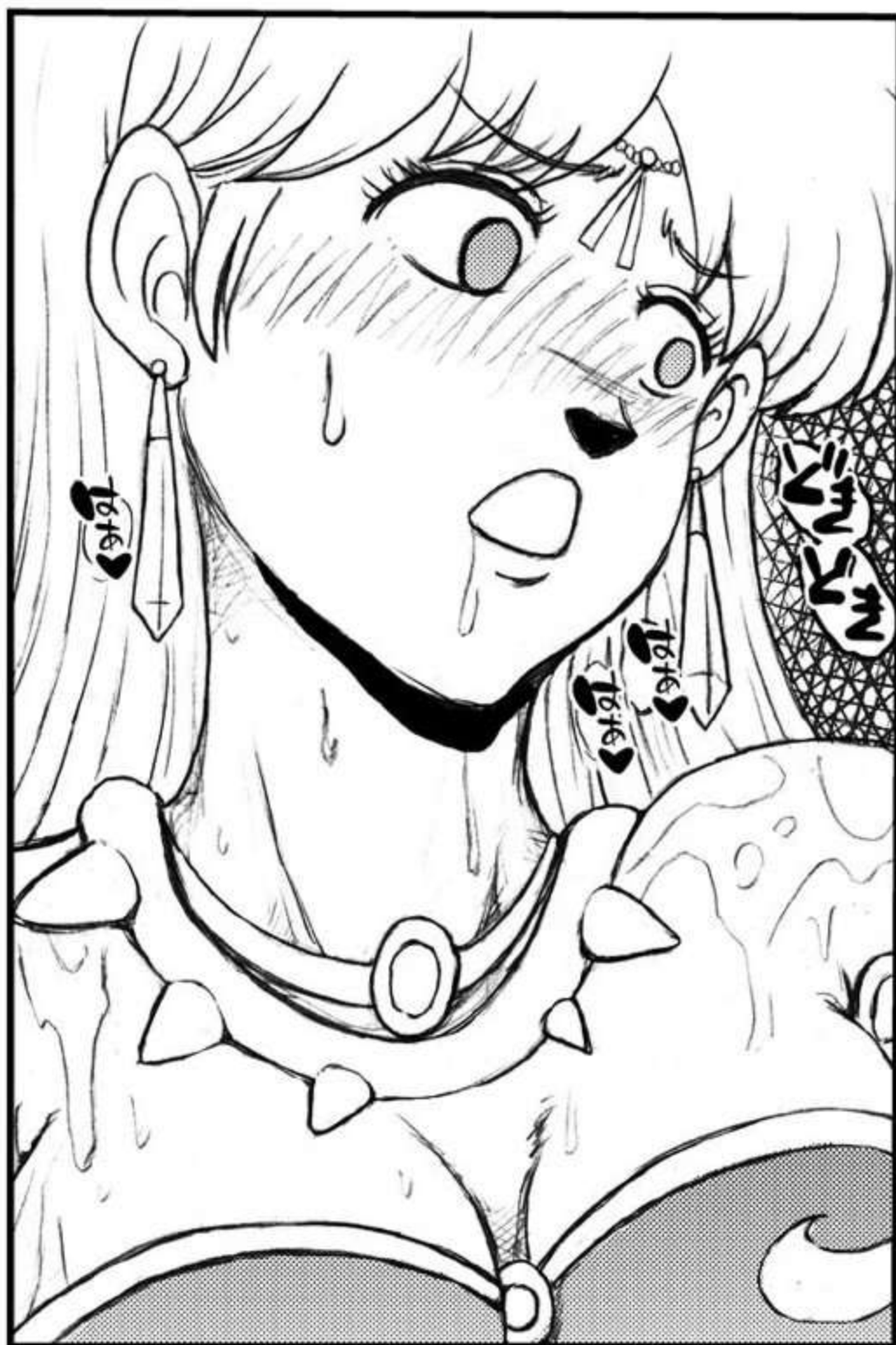
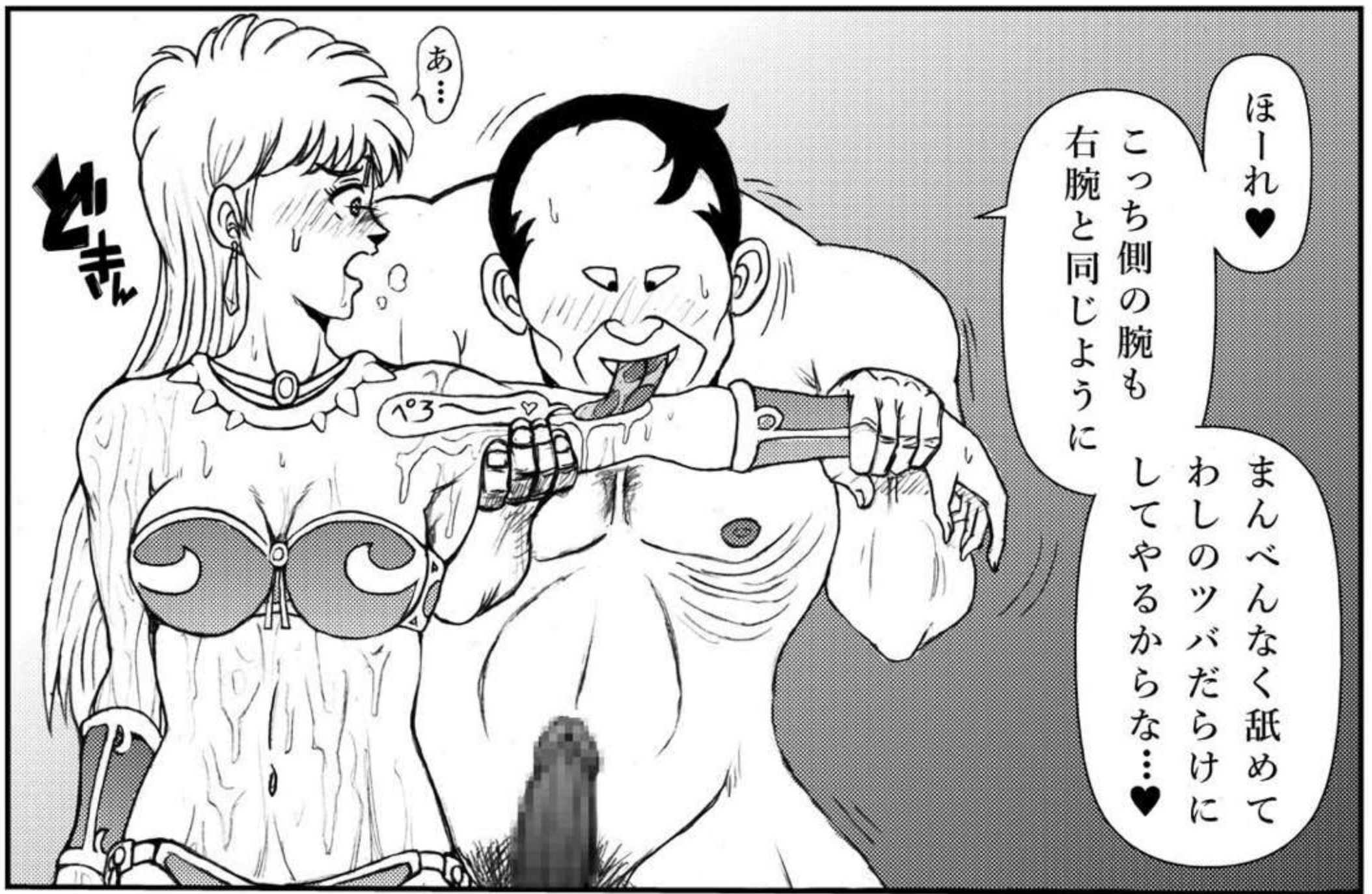
ん？

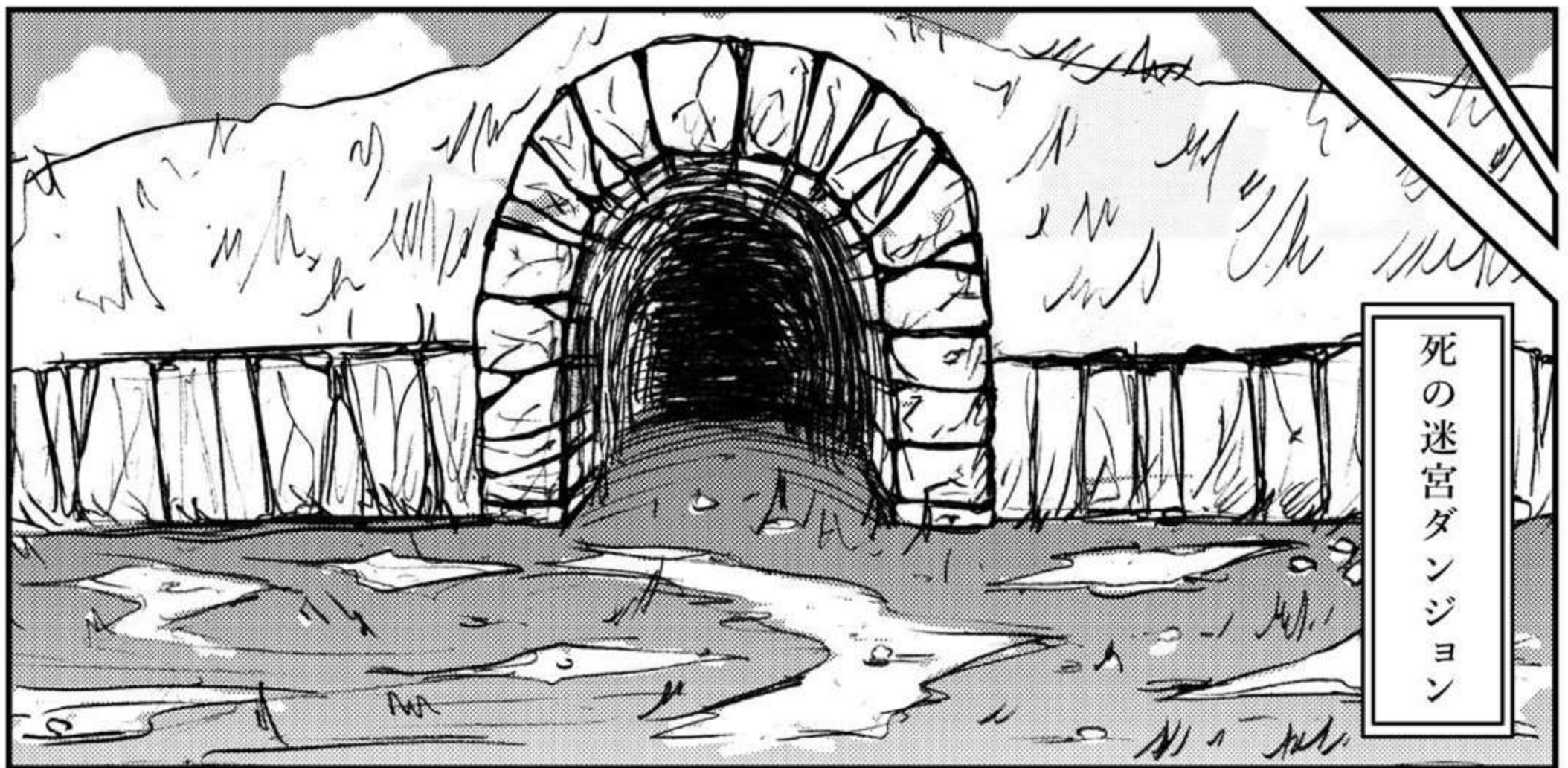
…

…

ん？

ん？





死の迷宮ダンジョン



おかしいなあ…

さつきから同じ
場所をぐるぐる
回ってるような…

はやく伝説の武器を
見つけて戻らないと
帰れなくなりそうだ



今さら引き返すわけ
にもいかないし…

急がなきゃ…

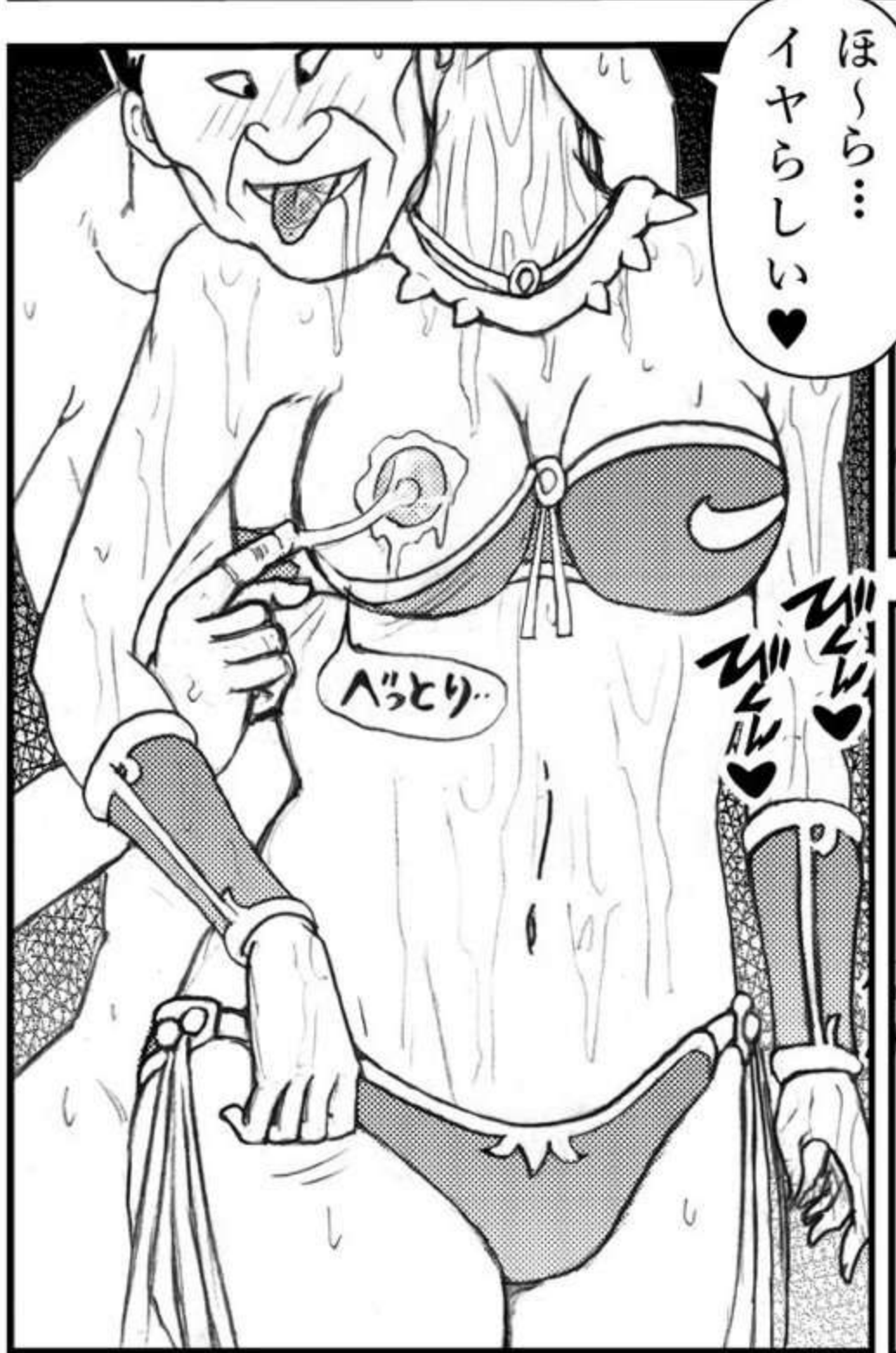
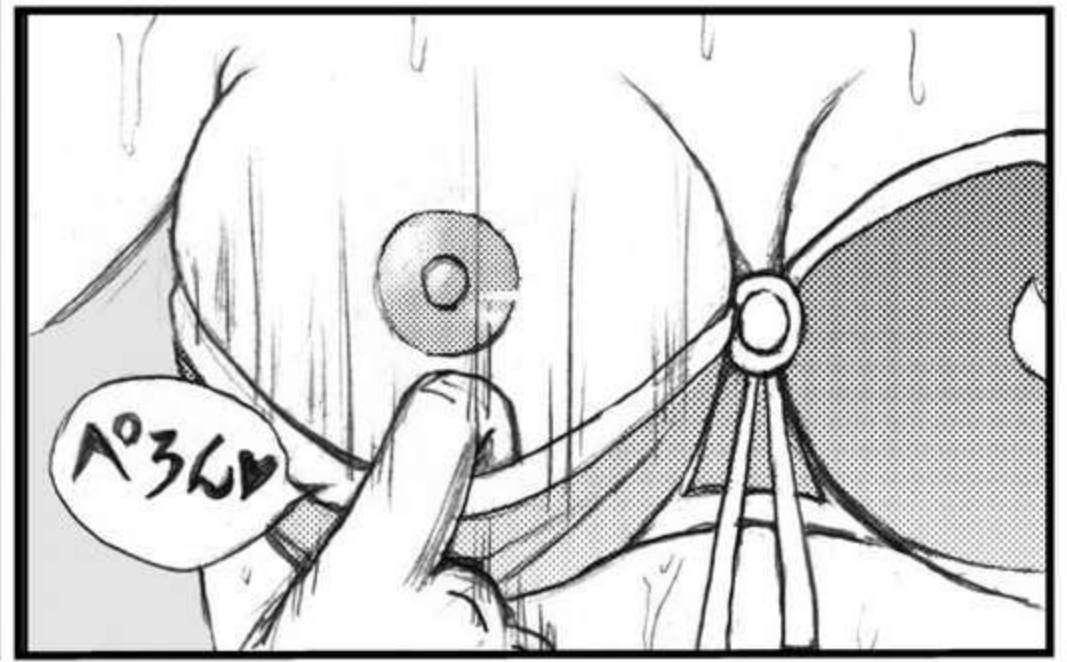
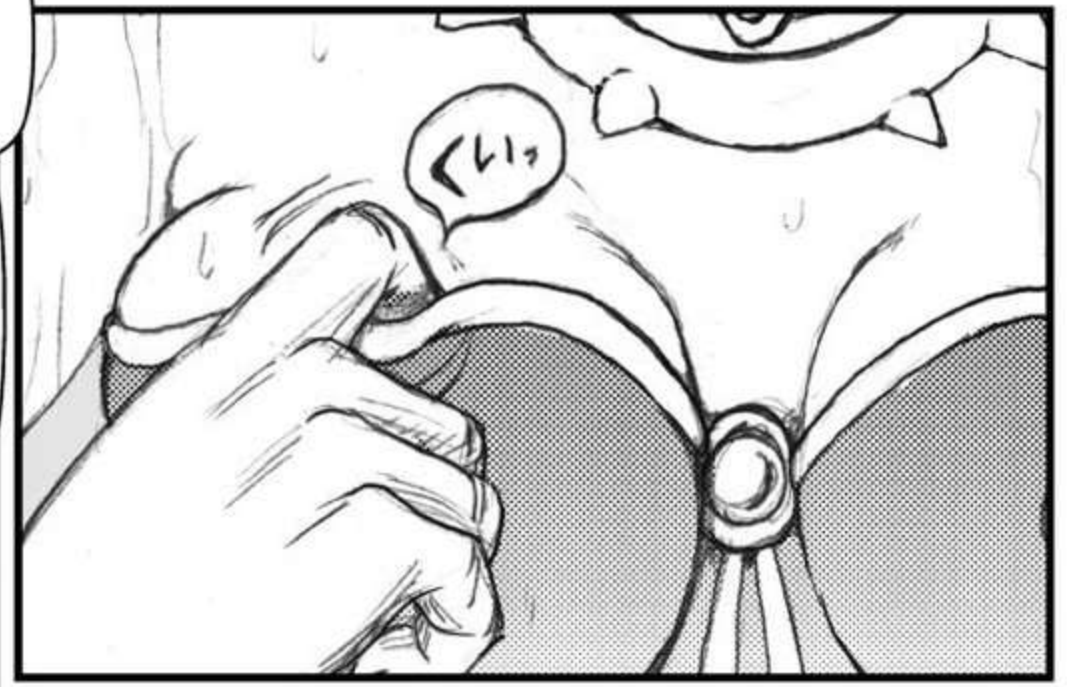


それに…

ずいぶん奥まで
来ちゃってから
気づいたけど

もらった袋の中
食糧じゃないし…
間違えたのかな…?







どれ：
ちよつと顔を
見せてみる



んおおっ…!?



なんだ？
乳首にツバを
塗られて興奮
したのか…？



ホレ…もっと
ツバの匂いに
してって
その顔でわしに
お願いしてみろ

おおっ…!?
すごい顔に
なつとる
ではないか！
さすがメダバニツク！

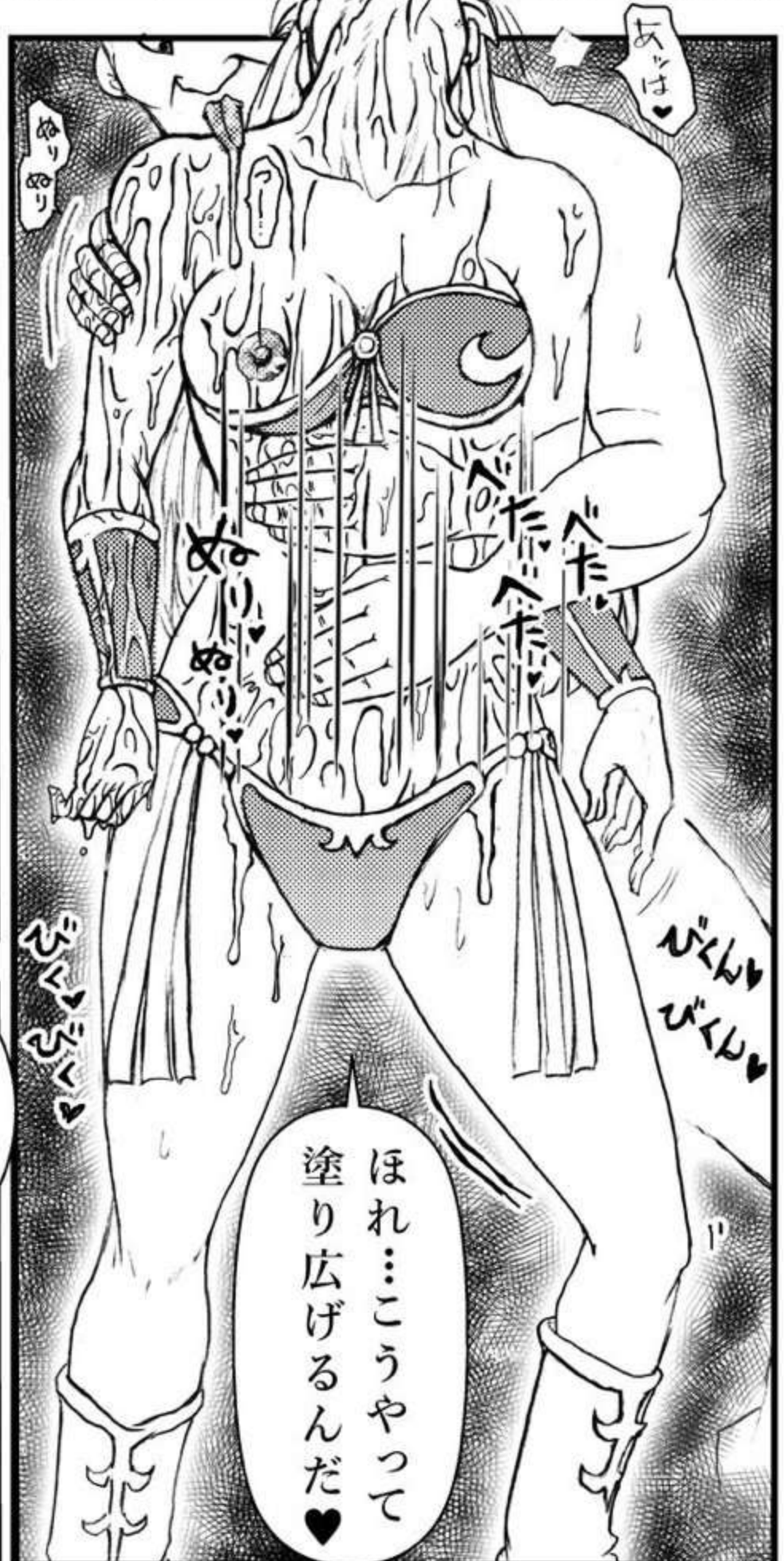
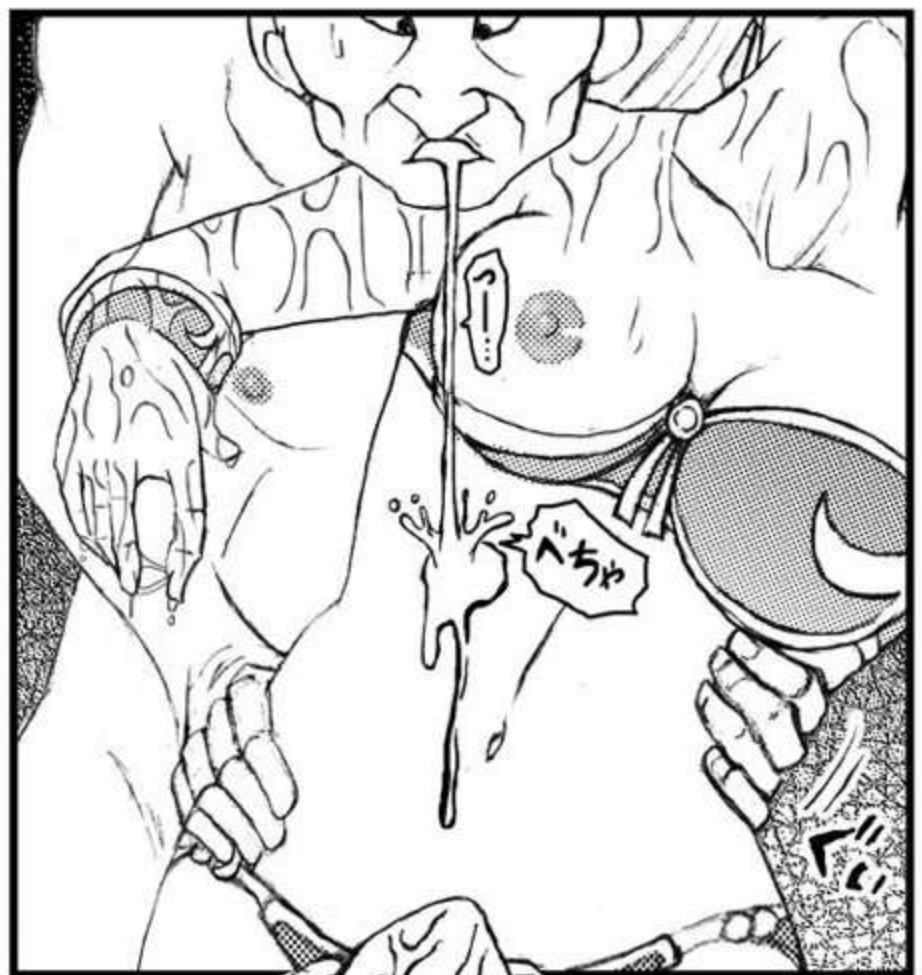
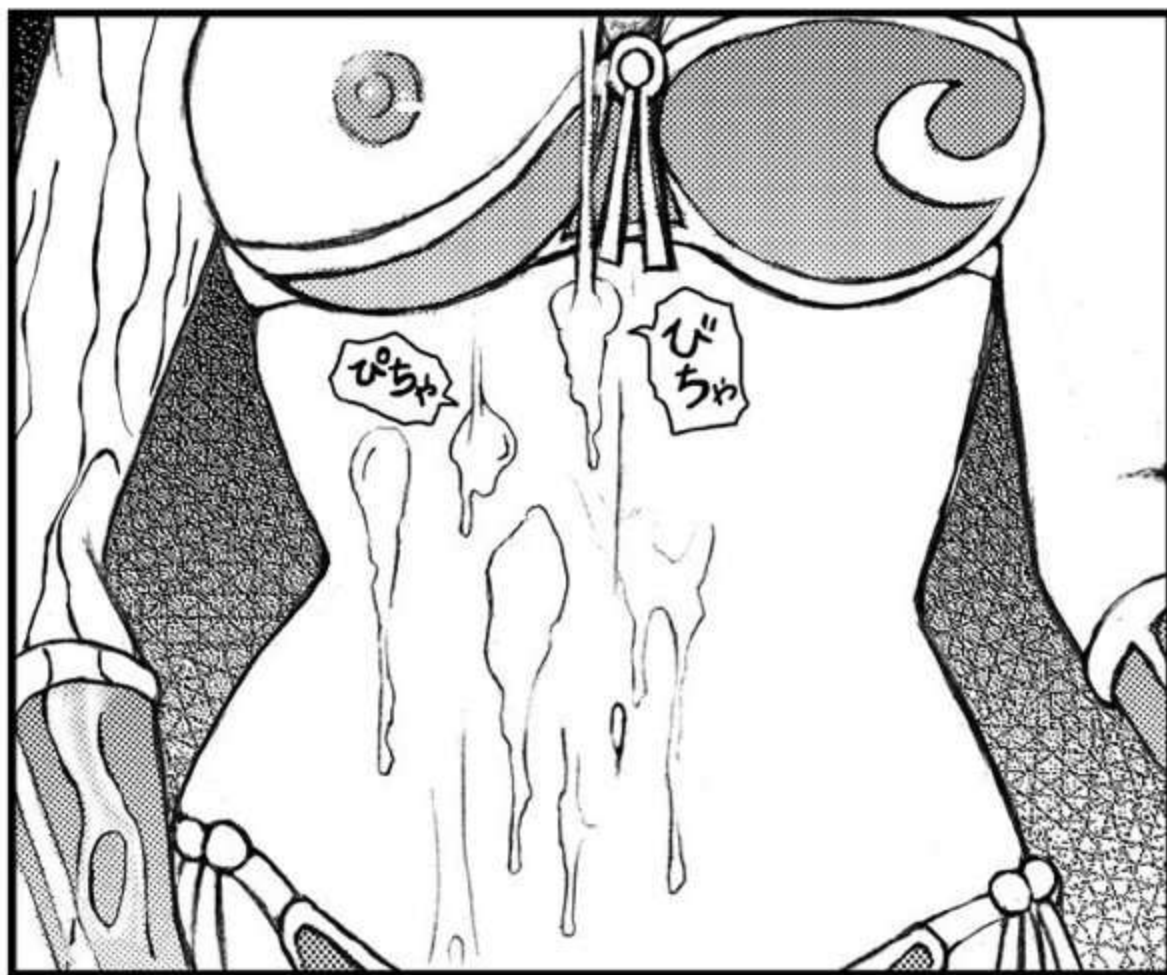


ふはは！
なにが『もっとツバ
の匂いにして』だ！
…この変態めっ♡



も…もっとツバ
の匂いにして♡





その頃ダイは…







ああっ...!?
すごい...口の中
舐められてる...



んっ...!?



す...すごい
匂いっ...♡

こんなことされ
続けたら私っ...

へ...変態に
なっちゃう...♡



えっ...?
は...鼻ッ?!



ああ...あ...
そんな風に鼻を
舐めるなんて...

ああ：
レオナの太もも
気持ちいい！♥

やッ…は!?

※レオナの太ももに
チンココすり付けている。

どうだ…？
わしのプレイは
具合がよいか？

へ…へんに
なっちゃうッ…

ゴシッ
ゴシッ
ゴシッ

くね
くね

くね
くね

※レオナのヨダレ

はあ
はあ
はあ
はあ

フフ…それで
よいのだ…

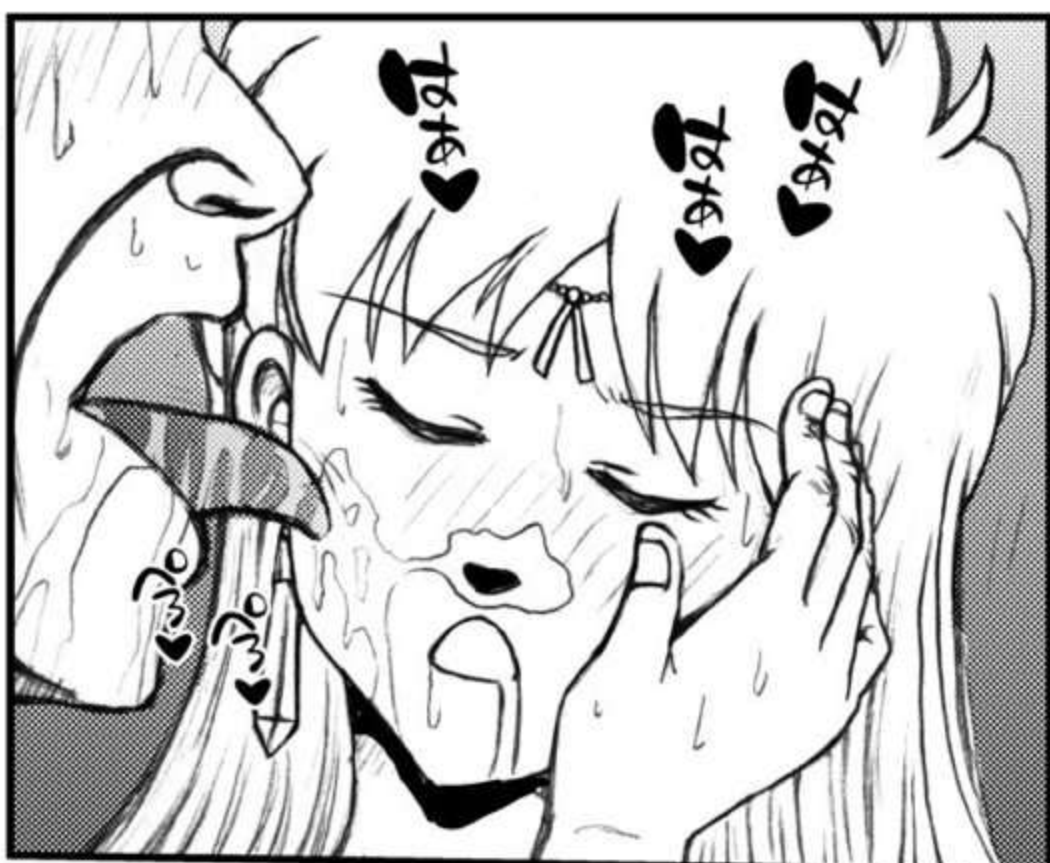
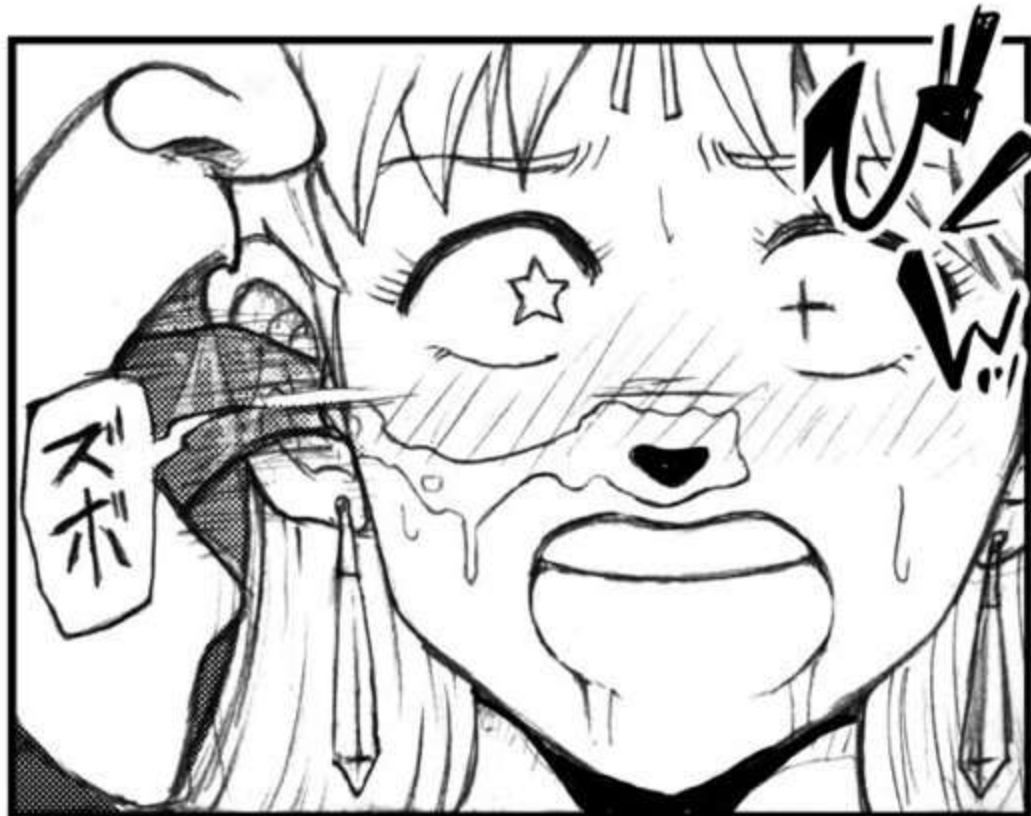
もっとへんに
なってしまえ
♥

はア…

へいシン様の
唾液…いい♥

舐めて…もっと
へんにして…♥







ふふ…♡
レオナの
身体…
もうすっかり
わしのツバで
べとべとだ♡

くくく…
望み通り
もっと塗って
やろう…♡



う…うそ
でしょ…!?

…ヘソの中も
行ってみるか



おへその
中って…

どれ…



エロい
味だ♡

やッ…は!?
そんな…トコ



こんなな舐められたのは初めてだろうか？



どうだ...？
イイ匂いか？



それでよいのだ
もっと興奮して

そのまま変態になっ
てしまえっ！



あっはあ!!
イイ匂い♡

こんなの嗅いでたら
変態になっちゃう...



ああっ...!!
い...イヤらしい
匂いがするっ♡

ふはっ
もはや変態みたいな
顔になってきたな♡

いずれ葉なしでも
わしのツバを嗅ぐと
そういう顔になる
ように調教してやる



ほれっ...
『もっとツバの匂い
にして』って言えっ...



も...
もっとツバの
匂いにしー



ーてッ...!!



おい…レオナ！
ちゃんと聞いとるのか!?
もっと何度も言えと
言っとるだろう！

ーッ!?



あれ…?
私なにをして…
っていうか…なに
この変な匂い?

…?
なんかぬるっと
してるし!



フフ…
すっかり変態だな
もっとツバの匂い
にし欲しかったら
もっと何回も言え



まったく何度も言わせるな!
『もっとツバの匂いにして』だ
ホレ…さっさと言ってみろ!

いやあああああっ…!?



…え?…え!?
なに…これ?
へいシン王!?

な…何して
るのよ…!?



ちよ…ちよつと…
へいシン王…!?

な…なにを
なさって…

なんだ…?
メダパニック
が切れたか?

メ…メダ…
パニック?

飲めば嘘が付け
なくなる薬だ

おまえが飲んだ結果
わしとこういうこと
するのが好きなのだ
とわかったのだよ♥

↑
※嘘



三分の一程の量で
だいたい六時間…
といったところか

ち…
違う…

なんだ…?
まだ忘れたフリして
すつとぼけとるのか?

わしの唾液にまみれて
興奮してたのは紛れも
なくおまえ自身だぞ



う…うそよ
そんなの…

うそなどではない
さつきまで散々
わしの唾液を嗅いで
喜んでおっただろ

ほれ!
思い出せ…
わしとの
愛の記憶♥



あ…

↓ ※嘘を吹込み中

メダパニックは本能に目覚めるときっかけに過ぎん

ただ…

今までと違う自分に戸惑っておるだけだ

素直になれ…

おまえはわしと相性が良いのだ

な…何かの間違いよ…

なんだ？

自分の記憶すら信じられんのか？

そ…それ…

まだ…あるの？

まだ…あるの？

もしガキが生きておればそろそろ帰ってくるはずだ

それまでにもう一度メダパニックを飲んでヘンになっておけ！

へ…ヘンになっ…

え…？

じ…自分で…

そんなの…イヤに決まってるでしょ…

メダパニックか？

もちろんあるぞ！

くくく…やはり飲みたいのだな

そ…そんなわけ…

大丈夫…すべてメダパニックのせいにしてしまえばよい…

また変態みたいに乱れたいだろう？

ほれ…早く飲んでしまいなさい！

くく…口ではそう言っておつても身体がわしを求めておるのだよ…

さっき飲ませたやつが三分の二ほど残つとる

今度は自分の手で自ら飲みなさい！

くく…

…

死の迷宮ダンジョン



もう食糧が底を
ついちゃったのに
出口がわからない…

このままだと
本当に飢え死に
しちゃうぞ…



…ん!?

あ…
あれって…



出口の光…!?

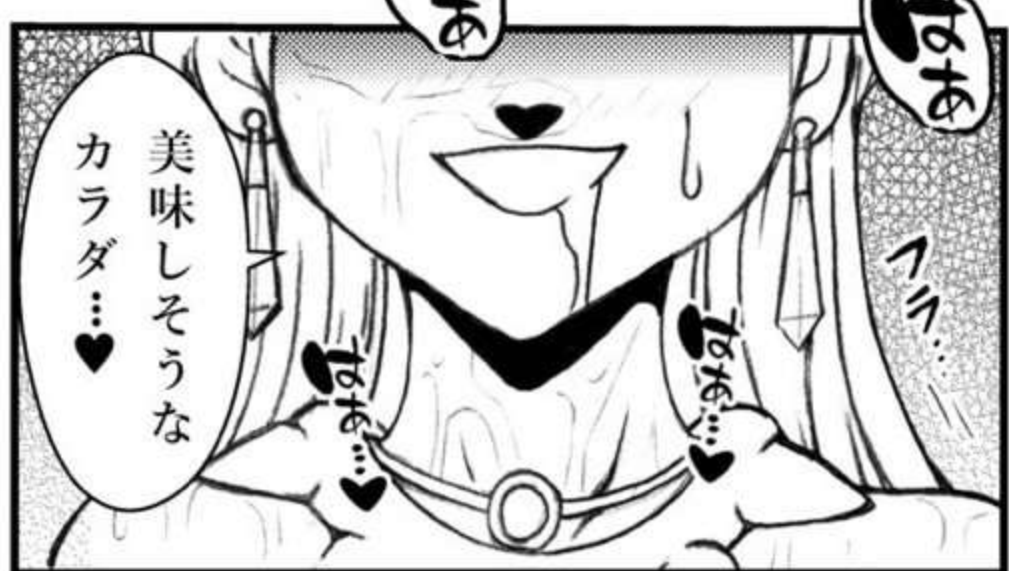
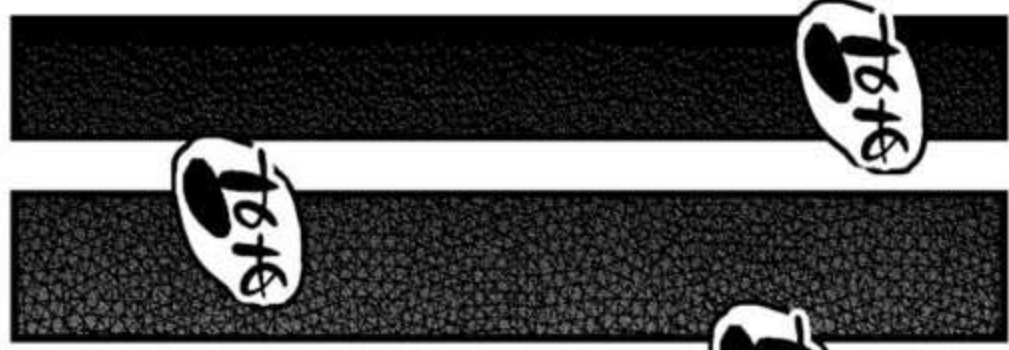
もしかして…



…ヤらしい味♥

はー！
はー！

くくく…よほど興奮しとったのか？
本当に自らメダバニックを飲みおった



美味しそうな
カラダ…♥



そうだ…乳輪は
ペロで円を
描くように…

乳首はエキスを
吸い尽くす
つもりで！

そしてわしの肉体を
レオナのヨダレで
ベチヨベチヨにしろ

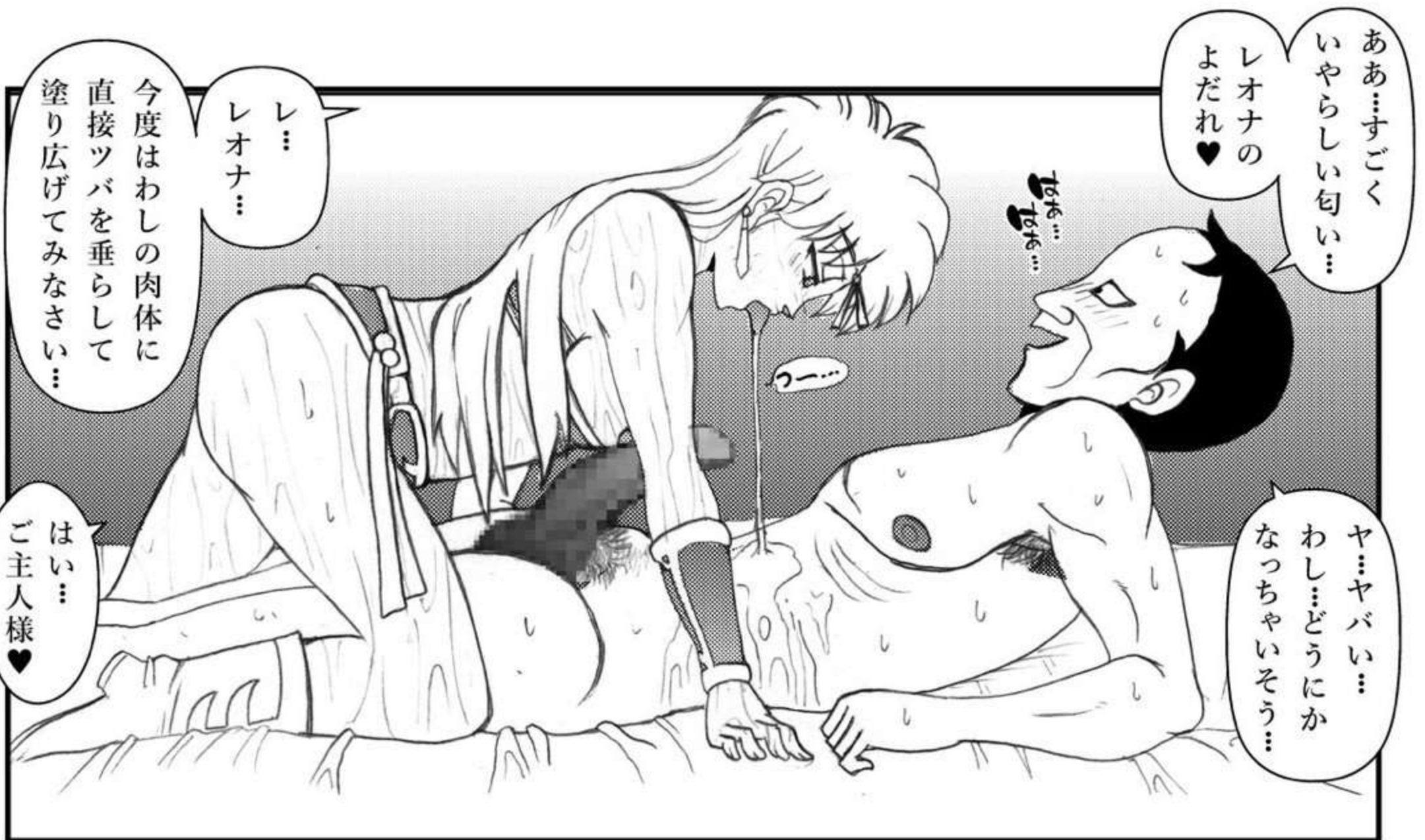
…はい
ご主人様♥



そう…いいぞ！
手のひらまで
丹念に舐めろ！



そう！
もつとちゅばちゅば
音を立てて吸え！



ああ…すごく
いやらしい匂い…
レオナの
よだれ♡

ヤ…ヤバイ…
わし…どうにか
なっちゃいそう…

レ…
レオナ…

今度はわしの肉体に
直接ツバを垂らして
塗り広げてみなさい…

はい…
ご主人様♡

はな あな なか
わしの鼻の穴の中にベロをいれて
出し入れしてみなさい…レオナ♡



そ…そうっ…
ああっ…イイ!!
も…もっど…
塗って…レオナ♡



はい…
ご主人さま♡



フワ…完璧だっ♡
イヤらしすぎるっ…このままでは
わし…発狂してしまっぞっ!!
もう我慢できん…
いきなりとんでもないことを
教え込んでやるか…



ああ...!?
レオナのペロ...
ヌルヌルして
具合がよいぞ

わしの鼻の穴は
どんな味だ...?
レオナ



おっ...!?
おっおっ



へっ...ヘンな
味がするっ...

こ...こんな味
覚えちゃったら
私...もうっ...



ああ...レオナ...
すごい顔...
もっとヘンなこと
いっぱい覚えて変態
になってしまえ...

んっ...
んっ...

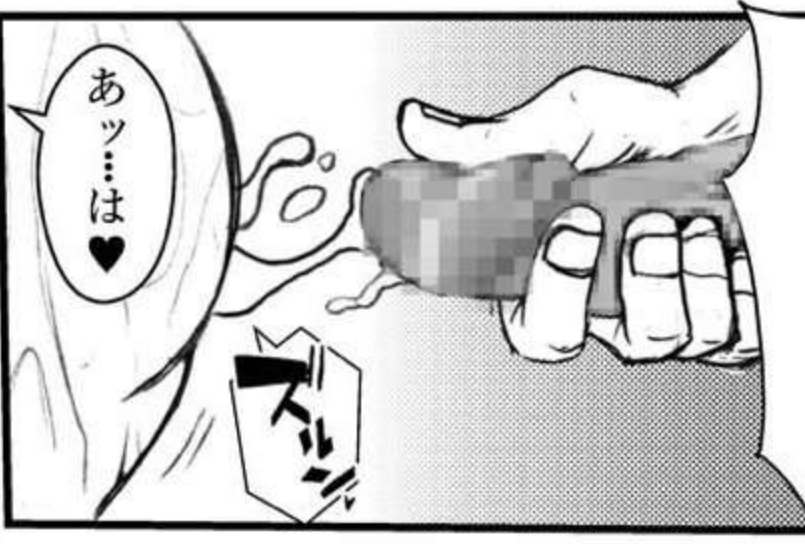
まだメダパニック
の催眠受付期間は
残つとるな...
よおし...レオナ
よく聞きなさい
おまえはわしの鼻くそ
の味と匂いで興奮する
変態となるのだ...

...はい
ご主人様

くはは...これでまた
レオナの変態性癖に
新たなレパトリ
が一つ加わったな!

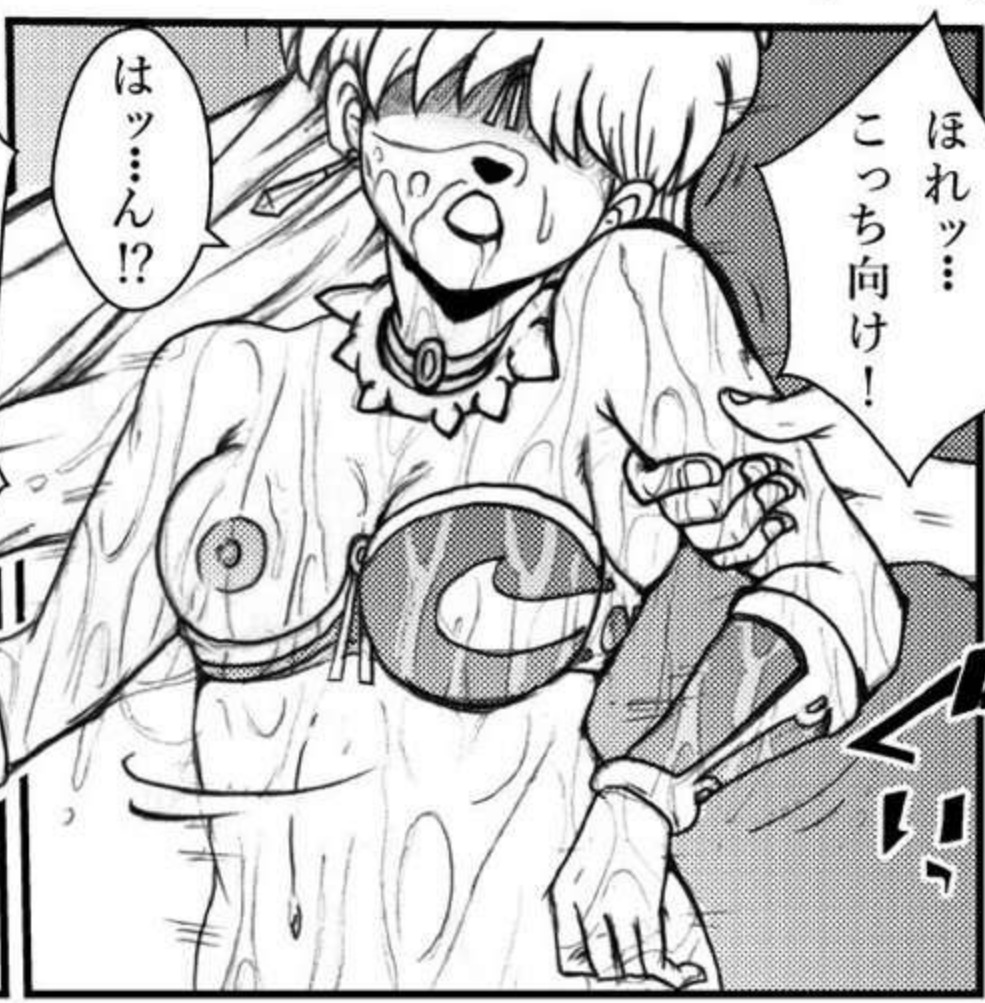


大丈夫だッ…
すぐに慣れるッ…



あッ…は

ほれッ…
こっち向け!



はッ…ん!?

すぐに射精してやるから
おまえはわしのチンコの
匂いでも嗅ぎながら待機ッ



あッ…!?

ああ…



よいか…? わしが射精したら
思いつきり吸い込めッ…もう…
普通のセックスじゃ満足できない
身体にしてやるからああああッ

よおし…お次は
鼻の穴ン中だッ

はッ…

鼻の…穴…ン中ッ

…つてええええッ!?

うおおおおおおおおおッ……

射^で精ちやうッ……

わし……射^で精ちやう

ッてええええーっ

わしの精子を

鼻の穴で受け止めろっ……

レオナあああッ







よいか？
おまえはもう
わしのモノ…

教えてやった
スケベな言葉で
わしに忠誠を
誓ってみろ！



私はもう
ヘイシン様
のモノ…

ヘイシン様の
お気に召すが
ままに…



あつ…
すみません！

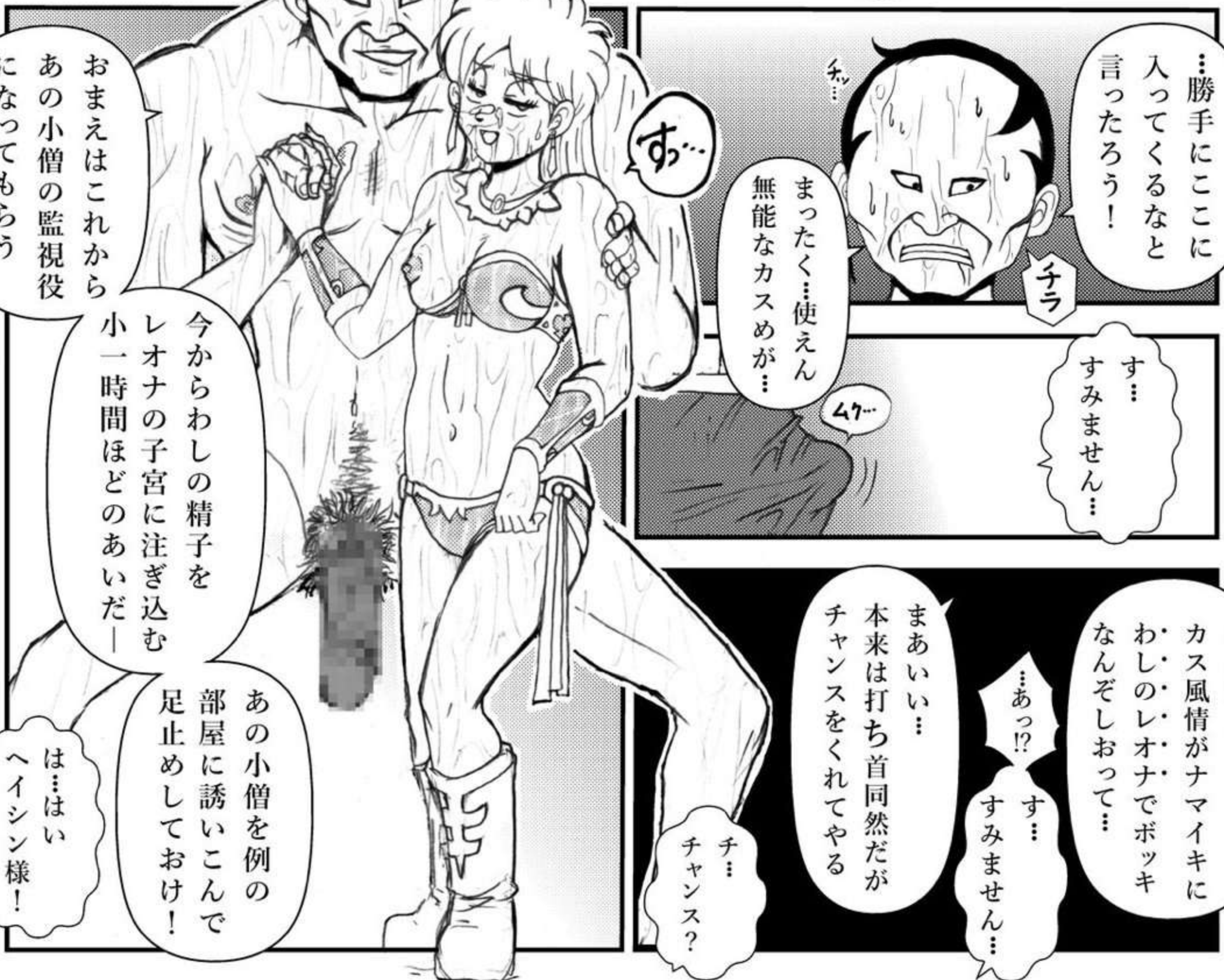
呼んでも返事が
なかったもので…

その…

ついさっき
ダイどのが
帰還して…

その…

ほ！
報告を！



…勝手にここに
入ってくるなど
言ったらろう！

チ…

まったく…使えん
無能なカスめが…

ム…

す…
すみません…

なんだ…？
カス風情がナマイキに
わしのレオナでポツキ
なんぞしおって…

…あつ！

す…
すみません…

まあいい…
本来は打ち首同然だが
チャンスにくれてやる

チ…
チャンス？

今からわしの精子を
レオナの子宮に注ぎ込む
小一時間ほどのあいだ—

あの小僧を例の
部屋に誘いこんで
足止めしておけ！

おまえはこれから
あの小僧の監視役
になつてもらおう

は…はい
ヘイシン様！



よいか？
おまえはもう
わしのモノ…

教えてやった
スケベな言葉で
わしに忠誠を
誓ってみろ！



私はもう
ヘイシン様
のモノ…

ヘイシン様の
お気に召すが
ままに…



あつ…
すみません！

呼んでも返事が
なかったもので…

その…
ついさっき
ダイどのが
帰還して…

その…
ほ！
報告を！



…勝手にここに
入ってくるなど
言ったらろう！

まったく…使えん
無能なカスめが…



あ…

おまえはこれから
あの小僧の監視役
になってもらう

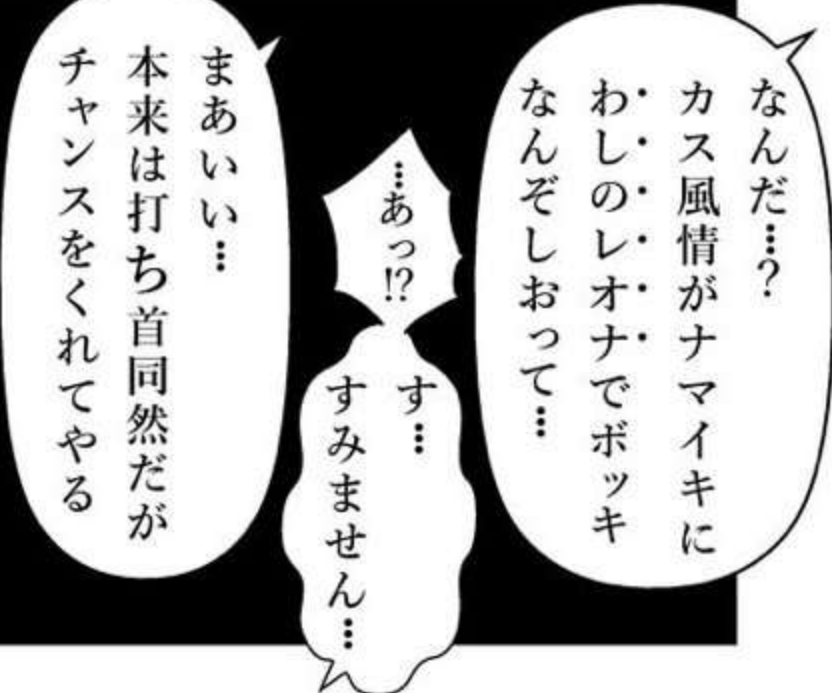
今からわしの精子を
レオナの子宮に注ぎ込む
小一時間ほどのあいだ—

あの小僧を例の
部屋に誘いこんで
足止めしておけ！

は…はい
ヘイシン様！



す…
すみません…



なんだ…？
カス風情がナマイキに
わしのレオナでポツキ
なんぞしおって…

まあいい…
本来は打ち首同然だが
チャンスにくれてやる

…あつ!?
す…
すみません…

チ…
チャンス？

ふたなり☆プリンセス



